



















## 人口、社会・産業特性等

人口・世帯	人口総数 (人)	15歳未満 人口 (人)	15～64歳 人口 (人)	65歳以上 人口 (人)	外国人 人口 (人)	出生数 (人)	死亡数 (人)	転入者数 (人)	転出者数 (人)	昼間人口 (人)
	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2010
北柱市	45,111	4,613	23,995	16,457	422	230	678	1,423	1,474	47,289
比率 (%)	100.0	10.2	53.2	36.5	—	—	—	—	—	—
富士見町	14,493	1,803	7,786	4,871	159	95	179	455	507	16,623
比率 (%)	100.0	12.4	53.7	33.6	—	—	—	—	—	—
原村	7,566	976	4,141	2,448	47	53	109	279	243	6,223
比率 (%)	100.0	12.9	54.7	32.4	—	—	—	—	—	—

経済基盤	課税対象 所得 (百万円)	納税義務 者数 (所得 (人))	事業所数 (事業所)	第2次産 業事業所 数 (事業所)	第3次産 業事業所 数 (事業所)	従業者数 (人)	第2次産 業従業者 数 (人)	第3次産 業従業者 数 (人)
	2015	2015	2014	2014	2014	2014	2014	2014
北柱市	52,301	19,271	2,713	537	2,113	21,269	6,299	14,189
比率 (%)	—	—	100.0	19.8	77.9	100.0	29.6	66.7
富士見町	17,710	6,551	723	232	477	7,558	3,775	3,594
比率 (%)	—	—	100.0	32.1	66.0	100.0	49.9	47.6
原村	9,502	3,334	433	136	289	2,408	641	1,700
比率 (%)	—	—	100.0	31.4	66.7	100.0	26.6	70.6

	製造品 出荷額等 C3401 (百万円)	製造業 従業者数 C3404 (人)	商業年間 商品販売 C3501 (百万円)	商業 事業所数 C3502 (事業所)	商業 従業者数 C3503 (人)
	2014	2014	2013	2014	2014
北柱市	190,653	4,765	50,667	444	2,295
富士見町	67,818	3,124	15,672	90	522
原村	6,786	297	7,716	43	203

行政基盤	財政力 指数 (市町村財政) (—)	実質収支 比率 (市町村財政) (%)	実質公債費 比率 (市町村財政) (%)	歳入 決算総額 (市町村財政) (百万円)	歳出 決算総額 (市町村財政) (百万円)	地方税 (市町村財政) (百万円)
	2014	2014	2014	2014	2014	2014
北柱市	0.45	4.2	11.0	33,599	32,589	6,997
富士見町	0.52	5.3	6.5	7,869	7,591	2,603
原村	0.37	15.9	5.3	4,736	4,244	886

労働	労働力人 口 (人)	就業者数 (人)	完全 失業者数 (人)	第1次産 業就業者 (人)	第2次産 業就業者 (人)	第3次産 業就業者 (人)	雇用者数 (人)	役員数 (人)
	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010
北柱市	25,012	23,718	1,294	3,859	6,157	13,480	15,730	1,114
比率 (%)	100.0	94.8	5.2	16.3	26.0	56.8	66.3	4.7
富士見町	8,279	7,914	365	1,038	2,825	3,950	5,799	398
比率 (%)	100.0	95.6	4.4	13.1	35.7	49.9	73.3	5.0
原村	4,457	4,289	168	1,190	1,151	1,931	2,464	170
比率 (%)	100.0	96.2	3.8	27.7	26.8	45.0	57.4	4.0

	雇人の ある 業主数 (人)	雇人の ない 業主数 (人)	家族 従業者数 (人)	自市区町 村で従業 して いる (人)	他市区町 村 への 通勤者数 (人)	従業地 による 就業者数 (人)	他市区町 村 からの 通勤者数 (人)	小売店数 (飲食店 を除く) (事業所)	飲食店数 (事業所)
	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2010	2014	2014
北柱市	627	4,044	2,114	18,133	5,386	24,204	5,872	500	307
比率 (%)	2.6	17.1	8.9	76.5	22.7	—	—	—	—
富士見町	173	922	541	5,034	2,736	9,300	4,122	95	48
比率 (%)	2.2	11.7	6.8	63.6	34.6	—	—	—	—
原村	166	736	739	2,299	1,954	3,228	893	43	27
比率 (%)	3.9	17.2	17.2	53.6	45.6	—	—	—	—

※統計で見る市町村のすがた2017(総務省統計局)

## (エ) 総合計画等に見る観光の位置づけ

計画対象地域の各市町村の総合計画等においては、観光や交流事業が次のように位置づけられている。

### a 北杜市

『第2次北杜市総合計画』の「基本構想（平成29～38年度）」において、北杜市づくりの基本コンセプト「人と自然と文化が躍動する環境創造都市」にもとづく将来都市像の「水と緑と太陽を活かした交流産業都市」に観光が位置づけられ、「多様な農業集積と観光拠点との連携を図り、高付加価値の商工業、サービス業等が立地する交流産業都市を形成します。」「地域における食の「北杜市ブランド」化を図ります。」と記されている。

そして、「施策の大綱（8つの杜づくり）」8項目の中の「品格の高い感動の杜づくり」に観光施策が位置づけられ、「1. 特色ある観光資源の活用、2. ハケ岳観光圏の推進、3. 南アルプスユネスコエコパークを活用した観光振興、4. 世界に誇る「水の山」の推進、5. 受け入れ体制の充実」の5項目があげられている。

具体的な内容及び「基本計画（平成29～31年度）」の記載事項は以下の通りである。

#### 基本構想

○品格の高い感動の杜づくり

#### 地域資源を活用した多様な観光の展開

##### 【現状と課題】

本市は、清らかで豊かな水資源や、山岳等の美しい自然景観を始め、非常に多くの観光資源を有していますが、十分に活用されているとはいえません。そのため、各地に点在する観光資源を結びつけて魅力ある観光商品として売り込んでいくことが課題となっています。このような中、平成27年には「世界に誇る『水の山』」宣言を行いました。南アルプス等に恵まれた自然環境によって育まれた名水を活かし、ブランド構築や推進等に取り組むこととしています。

近年では近隣自治体とのネットワーク強化による観光振興に取り組んでいます。本市と長野県富士見町、原村の3市町村で構成される「ハケ岳観光圏」では、広域連携による観光振興を進めており、観光庁からも全国でトップクラスの評価を受けています。さらに、観光地域づくりの新たな推進体制を確立していくことが求められる中で、日本版DMOの取組を進める必要があります。

平成26年には、南アルプスがユネスコエコパークに登録されたことを契機に北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会を設立し、豊かな自然環境を後世に守り伝え発信するとともに、持続可能な資源を利活用する取組がスタートしています。

このように、観光客を呼び込むための施策に取り組んでいますが、一方で、受け入れ体制を整備することも必要です。それぞれの地域で独自の活動を行っている観光協会や観

光事業者、観光案内所、観光施設等が連携し、宿泊を促すようなサービスを提供するとともに、豊かな資源を効果的に活用した旅行商品の開発や、情報発信等を行っていくことが必要です。また、観光客の利便性向上の観点から、観光施設の充実を図っていくことも課題となっています。

さらに、2020(平成32)年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから外国人観光客の増加が予想されるため、外国人観光客の誘客を図る取組が必要となっています。

#### 【主要施策】

##### 1. 特色ある観光資源の活用

美しい山岳景観に加え、国蝶オオムラサキの生息数、ミネラルウォーターの生産量、日照時間が日本一と言われており、自然環境に恵まれた文字どおり「山紫水明」の地を誇る本市の魅力を伝えるため、資源を磨き上げるとともに新たな資源を発掘するなど、各種事業に取り組みます。

##### 2. 八ヶ岳観光圏の推進

八ヶ岳観光圏による長野県富士見町、原村との連携を強化する中で、観光誘客に向けた事業に取り組みます。また、日本版DMOの取組への支援を行います。

##### 3. 南アルプスユネスコエコパークを活用した観光の振興

南アルプスユネスコエコパークへの登録を機に、ユネスコエコパーク関係団体との連携を強化する中で、豊かな地域資源を活用した観光の誘客に向けた事業に取り組みます。

##### 4. 世界に誇る「水の山」の推進

「世界に誇る『水の山』」宣言を活かし、国内外に向けて水の資源としての価値を周知しながら、ブランド構築等に努めます。

##### 5. 受け入れ体制の充実

観光地の整備や充実を図るとともに、観光関係者と連携した受け入れ体制の整備や、観光客が再び訪れるように安全・安心で快適な観光地づくりを行います。

また、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることから、外国人観光客に対応した情報発信や受け入れ体制の整備を推進します。

#### b 富士見町

『第5次富士見町総合計画』では、「基本構想(平成27～34年度)」の8つの目標の中の「観光強化」に観光の振興が政策として位置づけられ、「豊かな自然環境に恵まれた本町の地域資源を保全、再発見し、価値ある地域資源として整備を進め、魅力ある地域づくりを行います。また、八ヶ岳観光圏としてブランド観光圏の確立や南アルプスの自然環境の保全・活用に向けて周辺市町村や観光事業者との連携により、観光振興を強化します。」と記されている。

「前期基本計画（平成２７～３０年度）」では、政策に「観光振興を図ります」と掲げ、４つの施策が挙げられている。

具体的な内容は以下のとおりである。

#### 施策１ 観光の推進

##### 【現状と課題】

- ・富士見パノラマリゾート及び富士見高原リゾートの２大リゾートを拠点とする自然環境を生かした観光資源の維持管理に加え、植栽や登山道整備、ツアープログラムなどの充実、観光事業者が相互に連携した観光宣伝により、年間を通して集客することができる観光施策の拡充が必要です。
- ・八ヶ岳観光圏についてブランド観光圏として独自の価値を確立するため、北杜市、原村と連携して、エリア内の魅力を創出する事業や受入環境の整備、誘客プログラムにより新たな付加価値を備えた着地型、滞在型観光地づくりが重要になります。

##### 【戦略的な具体的事業】

- ①花と心の里山をテーマに入笠、八ヶ岳の観光資源の充実を図ります。
- ②各種団体関係企業と連携し宣伝活動を進めます。
- ③観光協働事業を進め、特産品の開発販路拡大を進めます。
- ④八ヶ岳観光圏整備事業を進めます。
- ⑤町の歴史、文化を取り入れた観光戦略を進めます。
- ⑥パノラマスキー場の運営を支援します。

#### 施策２ 観光施設の維持管理

##### 【現状と課題】

- ・観光施設は、一体的、計画的に維持管理、整備を進めることが必要です。

##### 【戦略的な具体的事業】

- ①観光施設の整備管理を行います。

#### 施策３ 観光協会の連携強化

##### 【現状と課題】

- ・町観光事業者等と連携し、観光協会が独自に各種体験、滞在プログラムなど商品企画や販売を行い、観光宣伝する取組みや、観光協会の体制強化を図ることが課題です。

##### 【戦略的な具体的事業】

- ①観光協会活動を支援します。

#### 施策４ 南アルプスの自然環境の保全・活用

<p>【現状と課題】</p> <p>・南アルプスの自然環境の保全や観光・文化等の資源の発掘・活用を行い、魅力ある観光資源を創出することが課題です。</p>
<p>【戦略的な具体的事業】</p> <p>①南アルプスの自然環境の保全と活用を推進します。</p>

## **c 原村**

『第5次原村総合計画（平成28～37年度）』では、「むらづくりの基本理念」の4つの項目の3つ目の『産業の連携による活力あるむら』に観光が位置づけられ、「今後は、本村の伝統工芸と移住者の芸術・工芸等の技術・文化との交流を通じて、多面的な機能を持つ農業を主軸にしながら、森林などの資源と、観光や工業、商業、サービス業等様々な産業が関連・連携を深めながら観光農園、特産品加工、芸術・工芸等、住民主体の原村らしい新しい地域産業を形成し、経済活動が村内で循環して地域力を高めていく新しい「しくみ」をつくります。」と記されている。

また、原村の将来像を「人と自然と文化が息づく美しい村」とし、5つの村づくりの目標を掲げ、その4番目の「産業振興による魅力・活力ある村づくり」の中に観光の施策が位置づけられ、「観光を中心にした、各産業間の連携」と「原村ブランド」を活かした観光振興、「広域連携による観光振興」の3項目が掲げられている。

具体的な内容は、以下の通りである。

## **前期基本計画の基本方針**

### **○観光を中心にした各産業間の連携**

<p>1. 農業と連携した観光振興（重点施策）</p>
<p>【現状と問題点】</p> <p>・観光ニーズも変化してきており、その地域特有の自然の中に身をおいた、自然、文化の体験や、芸術や趣味を楽しむ体験型・滞在型の観光が望まれています。</p> <p>・今後、農業と連携した体験型・滞在型の観光を展開することが求められています。住民とのワークショップからも、農家とペンションのオーナー、商工会等と連携し、農業体験、滞在型観光、観光農園等の推進が提案されています。</p>
<p>【具体的な施策】</p> <p>①工房や農家等の体験施設のネットワーク化と、体験メニューの提案</p> <p>②ペンションなどの宿泊施設や工房、農家等との連携による体験型・滞在型観光の促進、受入れのコーディネート体制の創設</p> <p>③農作物収穫体験等による新たな観光魅力の付加</p> <p>④モデルコースの提案と宣伝活動の推進</p>

## ⑤地域を挙げてのおもてなしの心の醸成

### 2. 森林を活用した観光振興

#### 【現状と問題点】

・本村の森林は、間伐等の手入れにより再生されてきています。また八ヶ岳の小径を利用した自然散策コース、マレットゴルフ場、自然体験林等として交流やレクリエーション、イベントなどに活用されています。

#### 【具体的な施策】

- ①森林資源を活用した交流の推進
- ②森林資源を活用し、環境や健康に配慮した観光の促進

### 3. 観光拠点の再生とネットワークの整備（重点施策）

#### 【現状と問題点】

・本村の観光資源としては、八ヶ岳中央高原を中心に約1,400人の収容能力を持つ60数軒のペンションなどの宿泊施設、八ヶ岳自然文化園、歴史民俗資料館（八ヶ岳美術館）、もみの湯、樫の木荘等の観光関連施設等の観光施設の整備が行われてきました。また、これらの施設を活用しての住民参画による各種イベントや活動が展開されています。

・観光客等が本村に訪れてからの案内施設は、たてしな自由農園にある観光案内所となります。本村を訪れていただいた観光客等の受入れ体制をより強化するためには、情報提供・観光資源等のコーディネートがより重要となっています。

・「日本で最も美しい村」連合に加盟したことを機に地域資源を結び、観光産業の活性化につなげることが期待されています。

#### 【具体的な施策】

- ①原村版DMOの研究（観光村づくり）（重点施策）
- ②地域資源を活用した滞在型モデルコースの提案・PR
- ③各種施設やイベントなどの連携による活性化推進
- ④観光ガイドの育成
- ⑤情報ネットワークの構築による総合案内機能の整備やWi-Fiによる観光情報発信
- ⑥ホームページなどによる観光情報の発信
- ⑦観光拠点の強化
- ⑧魅力的な観光づくりの継続

## ○「原村ブランド」を活かした観光振興

### 1. 農産物の付加価値化（重点施策）

#### 【現状と問題点】

<p>・加工施設、農産物直売所については、以前より住民からの要望も多く、加工場設置検討委員会を立ち上げ協議を行い、検討しましたが実現しませんでした。</p> <p>今後、地方創生事業を取り込み本村の農産物を使用しての商品の研究、開発をし、広く住民の意見を聴きながら施設の方向性等について検討していくことが求められています。</p>
<p>【具体的な施策】</p> <p>①農産加工施設の整備検討と6次産業化の推進</p> <p>②農産物直売所の活用と整備の推進</p> <p>③農産物の販路の拡大</p>

<p>2. 星・音楽をテーマとした観光ブランド</p>
<p>【現状と問題点】</p> <p>・本村は、空気が澄み、満天の星が見える自然環境を持っています。大自然の中にあるハヶ岳自然文化園を中心に、各種団体、住民による星まつり・星空の映画祭・星空観望会等、星をテーマとした観光イベント、音楽を中心とした音楽会等が開催されています。これらのイベントの継続により、原村はブランド化されつつあります。</p> <p>・これらは、新たな観光資源となるとともに、本村から全国への文化の発信源ともなっています。</p>
<p>【具体的な施策】</p> <p>①ホームページや観光キャンペーンなどを活用したPR活動の推進</p> <p>②宿泊や体験・観光施設を組み合わせたモデルコースの提案・PR</p> <p>③プラネタリウムの設備や番組の更新</p>

#### ○広域連携による観光振興

<p>1. 観光推進体制の充実</p>
<p>【現状と問題点】</p> <p>・行政を含めた観光連盟、商工会によるイルミネーションフェスティバル、まるごと収穫祭に代表されるような観光事業が行われています。</p> <p>・市町村の枠を越えた事業展開が必要となっており、観光客の趣向にあった旅行の設定や提供が望まれています。</p> <p>・広域的な観光をめざし、諏訪地方観光連盟が組織され統一した宣伝や各種活動を行っています。</p> <p>・山梨県側との接点が少なく、県境を境に観光情報が途絶えてしまう状況となっています。</p>
<p>【具体的な施策】</p> <p>①ハヶ岳観光圏を活用しての着地型旅行商品の企画・販売</p>

- ②メディアを積極的に活用した観光情報の発信
- ③インバウンド事業の体制構築及び支援
- ④キャンペーンなどPR活動協力団体の構築の検討
- ⑤観光連盟・商工会等の活動支援

## 2. 広域の観光交通利用対策

### 【現状と問題点】

・八ヶ岳観光圏事業で検討している首都圏からの直行便を利用して、八ヶ岳リゾート周遊バスを利用した原村への誘客が望まれています。

### 【具体的な施策】

- ①首都圏からの直行バス運行の検討
- ②JR各駅からのバスのアクセス便の確保



## イ 地域資源の現況と観光特性

八ヶ岳エリアは四季の移ろい鮮やかな地域で、その広大なエリアには日本人のみならず、外国人をも魅了する多くの自然資源や人文資源、観光レクリエーション施設が存在し、また安心・安全で、快適な宿泊施設が数多く立地している。

市町村別の観光客数の推移、各交流地区別の特徴、また、観光資源・地域資源、年中行事・イベント、観光客数及び宿泊客数、宿泊収容力の概要は、以下の通りである。

### (ア) 各交流地区別の特徴

#### ●北杜市・八ヶ岳横断歩道交流地区

- ・八ヶ岳中信高原国定公園内にある八ヶ岳横断歩道を中心としたエリア。体験プログラムも多く夏のトレッキングや乗馬、冬のスノーシュー、スキーシューをはじめ、八ヶ岳登山口の起点となる箇所もあり、足下の自然と、南アルプス、富士山などの景観が楽しめるほか、そば打ち体験やクラフト体験も楽しむことができる。
- ・平山郁夫シルクロード美術館や中村キース・ヘリング美術館等をはじめ、大小さまざまな美術館や博物館がある。
- ・サンメドウズ清里スキー場の標高1,900mに設けられたテラスからは富士山を始めとする山々の眺望と、雲海が楽しめる。
- ・名水百選「八ヶ岳南麓高原湧水群」がある。

#### ●北杜市・金生遺跡・谷戸城址交流地区

- ・金生遺跡は縄文時代の集落跡と中世の集落跡が複合した遺跡であり、谷戸城は平安時代末期の甲斐源氏の祖、新羅三郎義光の孫黒源太清光の居城址などがある。また近年には金田一春彦記念図書館が設置される等、この地は縄文時代から現代まで人々の生活が営まれてきた場所である。

#### ●北杜市・オオムラサキ交流地区

- ・日本の国蝶である「オオムラサキ」は八ヶ岳観光圏内ではいたるところで見ることができるが特に多く生息しているのがオオムラサキセンター周辺である。オオムラサキが生息できる澄んだ空気、清らかな水、燦々と輝く太陽の恵みを感じることができる。また近くには、燦々と輝く太陽光を利用した北杜サイト太陽光発電所がある。

#### ●北杜市・増富ラジウム温泉峡交流地区

- ・増富ラジウム温泉峡は、武田信玄が金山開発中に発見した隠し湯であるという伝承を持ち、ラジウム含有量世界一ともいわれる効能の高さから湯治場として栄えた温泉であ

り、自然療法や温泉療養等のプログラムも行われている。またこのエリアは、金峰山や瑞牆山への登山の起点であり、また紅葉の名所としても有名である。

- ・名水百選「金峰山・瑞牆山源流」がある。

#### ●三代校舎ふれあいの里交流地区

- ・明治、大正、昭和それぞれの時代の校舎が再築され、農業・食・歴史を中心に都市との交流を行っている。
- ・古民家で、日本古来の暮らしを体験することができる。

#### ●北杜市・ひまわり畑とフラワーセンター交流地区

- ・日照時間が日本有数のこのエリアには、約60万本のひまわり畑と県立フラワーセンター「ハイジの村」があり、八ヶ岳観光圏東側の花のエリアである。
- ・豆苗やトマトなど野菜の生産を行う農業生産法人が集積しているほか、ワイン用ブドウが広く生産されているエリアである。
- ・国史跡の梅之木遺跡（史跡公園）がある。

#### ●北杜市・神代桜とこめの郷交流地区

- ・樹齢約2,000年、日本最古・最大といわれる「山高神代桜」があるエリア。日本三大桜の一つとして知名度が高く、八ヶ岳観光圏で一番先に咲くのもこの桜である。  
また近くには約750mの桜のトンネルが楽しめる眞原桜並木がある。  
この交流地区はおいしいお米の産地として有名であり、日本穀物検定協会の食味ランキングで最高評価の特Aを平成24年から5年連続、通算10回獲得している米を生産している。
- ・東日本一の名瀑とも言われる精進ヶ滝（石空川渓谷）がある。

#### ●北杜市・歴史と名水の里交流地区

- ・甲州街道の宿場として栄えた台ヶ原宿の面影を残す一角があり、現在は日本酒品評会「SAKE COMPETITION 2017」Super Premium部門で1位を獲得した酒蔵・山梨銘醸や観光庁が官民連携で作成した「日本でしかできない101のこと」にも選ばれている金精軒製菓があるほか、「台ヶ原宿市(骨董市)」などで賑わいを見せる地区である。
- ・甲斐駒ヶ岳を代表とする南アルプスの急峻な山岳と尾白川渓谷をはじめとする美しい景観に恵まれている。甲斐駒ヶ岳の登山口にあるこのエリアは名水百選「白州・尾白川」に沿って渓谷散策を楽しみ、尾白の森名水公園べるがでキャンプを楽しむことができる。
- ・甲斐駒ヶ岳を代表とする南アルプスからの清らかな名水はミネラルウォーター生産量

日本一を誇る。またその名水を使用しウイスキー蒸溜所、ジュース工場や洋菓子工場が集積しているエリアである。

#### ●富士見町・入笠山交流地区

- ・花の宝庫入笠山は、その名にふさわしく、数多くの山野草が咲き誇る。希少野生植物も生息しており、特に釜無ホテイアツモリソウと100万本の日本すずらんは本州随一の生息地として知られている。夏はトレッキングやマウンテンバイク、秋は雲海ゴンドラ、冬はスキーや、スノートレッキングなどのアクティビティも充実している。

#### ●富士見町・第3のシナリオ交流地区

- ・歴史的文化的な観光資源が多い富士見町の中心エリアは、地域住民と交流できる地区となっている。四季折々の花や自然が満喫でき、町名のとおり、富士山をはじめ、八ヶ岳や南アルプス、北アルプスなど山々の眺望に恵まれている。

#### ●原村・8つの頂を望む高原交流地区

- ・東に八ヶ岳、北は蓼科山、西に諏訪湖が控え、はるか遠くには北アルプスを望む。八ヶ岳の8つの雄大な頂をすべて望むことができる。高齢者就労率が約55%と高く、農・商・工業を連携させ、原村ブランドの創出を図っている。

### (イ) 観光資源・地域資源

計画対象地域は豊かな観光資源・地域資源に恵まれているが、全国的な知名度を有する資源は少ない。(公財)日本交通公社による評価において最高位の「特A級資源」とされる観光資源はなく、全国的な誘致力を持ち、観光重点地域の原動力として重要な役割を持つ資源は甲斐駒ヶ岳と八ヶ岳、御柱祭だけである。地方のイメージ構成の貴重となりうる資源も、鋸山、鳳凰三山、瑞牆山、金峰山、茅ヶ岳、長坂のオオムラサキ、三代校舎ふれあいの里、清泉寮のソフトクリームだけとなっている。

しかしながら、八ヶ岳の湧水や南アルプスの清流のような個性的な資源に加え、多数の美術館や博物館、花関連の施設、テーマパーク、産業観光施設(工場等)、道の駅、農産物等の直売所、牧場など様々な施設があり、農産物その他の素材も豊富で、それらの地域資源や自然資源の組合せや商品化によって地域の魅力が形成されている。

### (ウ) 年中行事・イベント

計画対象地域においてはオフシーズンとなる冬期には数が減るものの、年中行事やイベントがほぼ年間を通じて数多く開催されている。特に北杜市の清里エリアでの開催が

多い。テーマは様々であるが、芸術や音楽に関するもの、農や食に関するもの、花に関するもの、スポーツに関するものなどが多い。

収穫祭のように類似のイベントが多くの地域で開催されることについては、日程の調整も含め、連携により効果的なイベントの開催、運営を図っていくことが望まれる。

### **(エ) 宿泊収容力**

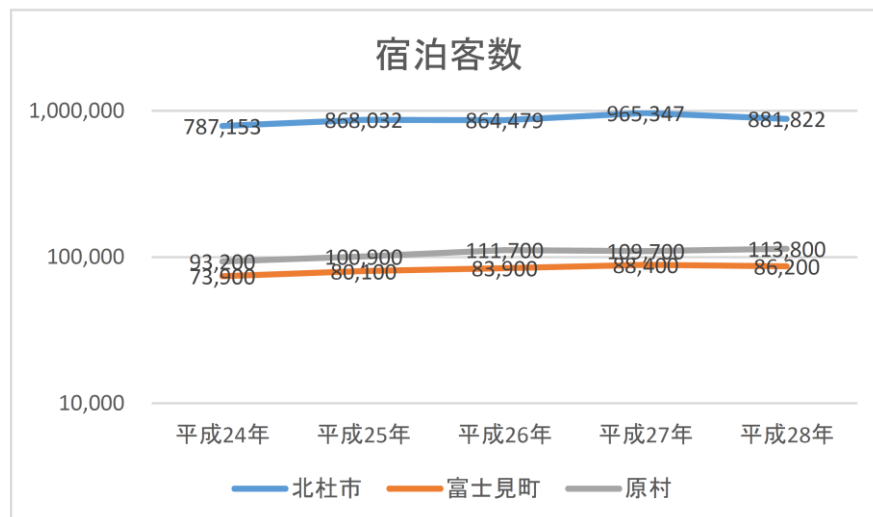
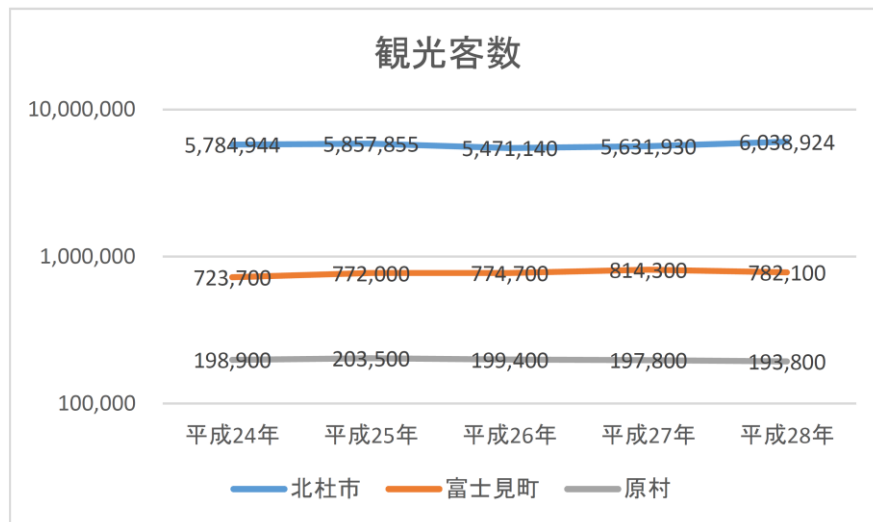
対象地域にはホテル、旅館、民宿、ペンション、公的施設など多様な宿泊施設が立地している。

北杜市では清里のある高根地区が最も多く、大泉地区、小淵沢地区の小海線沿線に多くの宿泊施設が集積している。その他、増富温泉のある須玉地区、南部の白州地区、武川地区に若干の集積がある他、明野に市営の宿泊施設がある。また、友好都市等の宿泊施設がある。

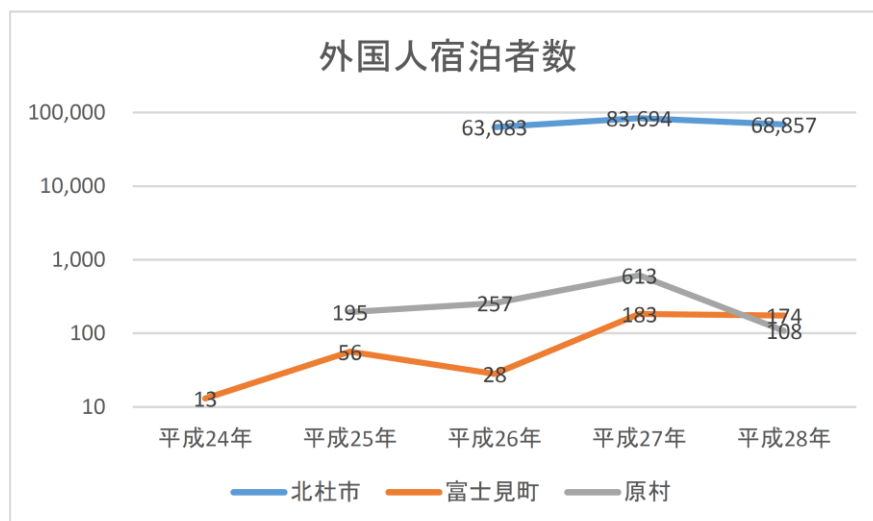
富士見町では富士見高原リゾート周辺に宿泊施設が集っており、ペンションが多く、ペンションビレッジが形成されている。他にホテルや、スポーツ施設を備えた合宿向きの宿泊施設がある。その他、パノラマリゾート周辺にペンションがあり、入笠山には、山荘などがある。

原村では、中央高原のペンションビレッジにペンションが集積している他、旅館、プチホテル、村営宿泊施設などがある。

●市町村別の観光客数の推移（延べ人数）



※注意：北杜市及び富士見町については実人数



※注意：北杜市は実人数

●観光資源の評価

種 別	ランク	名 称
山岳	A	甲斐駒ヶ岳
	A	八ヶ岳
	B	鋸山
	B	鳳凰三山
	B	金峰山
	B	瑞牆山
	B	茅ヶ岳
動物	B	長坂のオオムラサキ
年中行事（祭り・伝統行事）	A	御柱祭
建造物	B	三代校舎ふれあいの里
食	A	信州そば（全県）
	B	清泉寮ソフトクリーム
	B	ほうとう（全県）

\* 観光資源の分類と評価基準

資源分類		評価		
自然資源	人文資源	ランク	基準・内容	代表資源名
山岳 高原・湿原 原野 湖沼 河川・峡谷 滝 海岸・岬 岩石 洞窟 動物 植物 自然現象	史跡 神社・寺院・教会 城跡・城郭・宮殿 集落・街 郷土景観 庭園・公園 建造物 年中行事 動植物園・水族館 博物館・美術館 テーマ公園 ・テーマ施設 温泉 食 芸能・興行 ・イベント	S 特A級資源	わが国を代表する資源であり、世界に誇示しうるもの。日本人の誇り、日本のアイデンティティを強く示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。	富士山 屋久島の森 法隆寺 姫路城 祇園祭
		A A級資源	特A級に順じ、わが国を代表する資源であり、日本人の誇り、日本のアイデンティティを示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。	芦ノ湖 天橋立 浅草寺 上野動物園
		B 特別地域 観光資源	その都道府県や市町村を代表する資源であり、その土地のアイデンティティを示すもの、その土地を訪れた際にはぜひ立ち寄りたもの、また、その土地に住んでいる方であれば一度は訪れたいもの。	筑波山 志賀高原 浜名湖 アメ横 熱海温泉

資料：（公財）日本交通公社、観光資源台帳

## 計画対象地域におけるその他の観光資源

### ●北杜市

明野ひまわり畑	天女山
ハイジの村（山梨県フラワーセンター）	日向山（山梨百名山）
美し森	甲州街道台ヶ原宿（日本の道百選）
清春芸術村	金生遺跡（国史跡）
フィオーレ小淵沢	梅之木遺跡（国史跡）
津金三代校舎	谷戸城址（国史跡）
山高神代ザクラ（日本三大桜/新日本名木百選）	みずがき山自然公園
眞原桜並木	県立まきば公園
燕桜並木	キープ協会・清泉寮
神田大糸ザクラ	萌木の村
増富ラジウム温泉峡（にほんの里百選）	サンメドウズ清里・清里テラス
須玉美術館	八ヶ岳リゾートアウトレット
安達原玄仏画美術館	リゾナーレ八ヶ岳
浅川伯教・巧兄弟資料館	身曾岐神社
ポール・ラッシュ記念館	白州・尾白の森名水公園べるが
平山郁夫シルクロード美術館	サントリー白州蒸溜所・水工場（大人が楽しめる社会科見学百選）
清春白樺美術館	シャトレーゼ白州工場
オオムラサキセンター	あけの金時
金田一春彦記念図書館	八ヶ岳ビールタッチダウン
中村キース・ヘリング美術館	山梨銘醸・七賢
薮内正幸美術館	金精軒・水信玄餅
東沢大橋（日本の橋百選）	梨北米
八ヶ岳高原大橋	ヨンパチ米・農林４８号
本谷川溪谷・通仙峡（平成の名水百選）	道の駅南きよさと
川俣川溪谷・吐竜の滝	道の駅こぶちさわ
三分一湧水・大滝湧水（名水百選）	道の駅はくしゅう
尾白川溪谷・千ヶ淵（名水百選）	町の駅武川農産物直売センター
石空川溪谷・精進ヶ滝（日本の滝百選）	高根クライנגアルテン
八ヶ岳横断歩道	J R小海線（ローカル線百選/ハイレール1375）
信玄棒道（歴史の道百選）	村山六ヶ村堰疎水（世界かんがい施設遺産）
オオムラサキ遊歩道（遊歩百選）	北杜サイトメガソーラー（新エネ百選）

●富士見町

高原のミュージアム	井戸尻遺跡(信州ふるさとのみえる丘)
入笠湿原	カゴメ富士見工場
富士見高原リゾート	ルバーブ
井戸尻考古館	ほおずき
富士見町歴史民俗資料館	アルパカ牧場
富士見パノラマリゾート	稗の底古村址
道の駅信州蔦木宿	創造の森彫刻公園(関東の富士見百景)
おっこと亭	立沢大規模水田地帯(関東の富士見百景)
創造の森	葛窪中央道トンネル(関東の富士見百景)
ペンションビレッジオープンガーデン	入笠すずらん公園(信州ふるさとのみえる丘)
真澄蔵元	

●原村

八ヶ岳美術館	阿久遺跡
八ヶ岳自然文化園	セロリ
八ヶ岳温泉ふれあいセンターもみの湯	アネモネ
八ヶ岳中央農業実践大学校	ブロッコリー
たてしな自由農園	御小屋山(御柱山)
レストハウス樅の木荘	八ヶ岳の小径
小さな絵本美術館	カナディアンファーム
阿弥陀聖水	

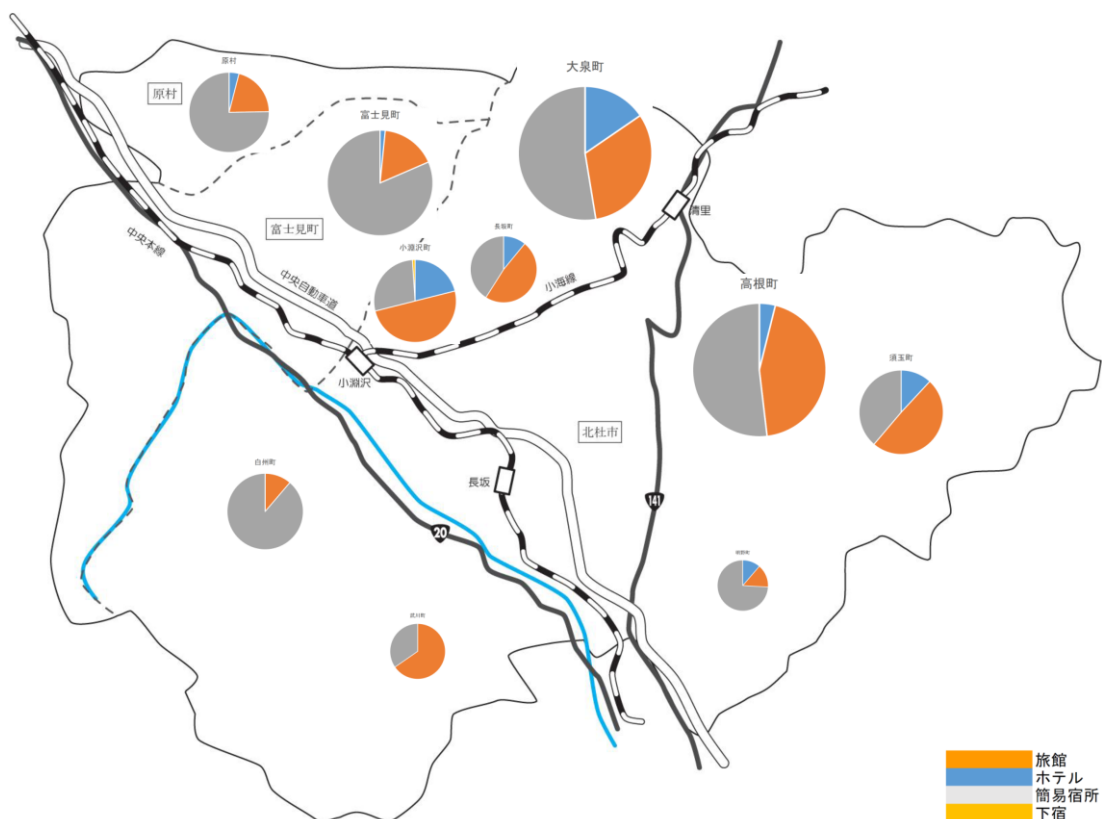
資料：各市町村



年中行事・イベントのスケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハケ岳		寒いほどお祭りフェア		ハケ岳天文博覧会				ハケ岳フォトフェスタ				
		スターオーシャンハケ岳										スターオーシャンハケ岳
												ハケ岳新そば祭りは通ぐり
北杜市		→ 北杜シェフズ・バル		→ 山崎神社祭り			→ 清里マルシェ	→ 福殿アートフェスティバル	→ ボールラッシュ祭～ハケ岳カンティンフェア	→ ハケ岳音楽祭 in Yamaguchi 台ヶ原宿市		
				●長坂夜桜まつり	●市民農園まつり	●ナチュラルガーデン		→ 明野サンフラワーフェス	→ 清里フィールドハレエ	→ 大人のソルト遊び in ハケ岳高原		
				●(5日)長坂餅のほり祭り	●増富温泉「火祭り」	●(3日)鳩川釣り大会		●増富温泉「湯祭り」	●ハケ岳餅能	●ハケ岳ジャズフェスティバル	●北杜ふるさと祭り	●大泉ふるさと祭り
富士見町	ハートに恋してハケ岳の冬 ・御来光登山		・富士見の日記念イベント		・アキグリーンカップ	・グルメサミット	・ナイトゴンドラ	・雲海ゴンドラ	ハートに恋してハケ岳の冬			
	・冬のハケ岳山麓ガイドツアー		・冬の入笠山スノーシューツアー	・古木したれ原ガイドツアー	・さくらまつり	・文学にふれる新緑ガイドツアー	・花の里オーブン	・OKK祭り	・西山登山ガイドツアー	・ファミリーフェスタ	・道の駅信州黒本宿新そば祭り	・おっここと亭新そばまつり
					・古木したれ原ガイドツアー	・すずらんまつり	・八ヶ岳クロスカントリー・甲州街道ガイドツアー	・入笠山開山祭	・入笠山ガイドツアー	・軽トラ市	・おっここと亭新そばまつり	・縄文王国収穫祭
原村				・ぼろ織機展示即売会		・ハケ岳開山祭	・高原新市	・ハケ岳自然文化園がた市	・アドベンチャー in 富士見	・ハケ岳の紅葉と古道ガイドツアー	・ハケ岳自然文化園がた市	・ハケ岳まるごと収穫祭
								・高尾の市	・古布の市	・ハケ岳・星と歩く夕陽の町	・ハケ岳まるごと収穫祭	・ハケ岳わんわん祭り
								・星空の映画祭	・ハケ岳・星と歩く夕陽の町	・ハケ岳ジャズコンサート	・はらむら古楽祭	・イルミネーション in 原村

## 宿泊収容力



## 宿泊施設数

市町村名／営業種別	ホテル	旅館	簡易宿所	下宿	計	合計
北杜市	明野町	1	1	3	0	5
	須玉町	2	11	16	0	29
	高根町	3	79	39	0	121
	長坂町	2	15	12	0	29
	大泉町	1	59	43	0	103
	白州町	0	6	20	0	26
	武川町	0	6	7	0	13
	小淵沢町	2	37	30	1	70
富士見町	1	12	42	0		55
原村	1	17	60	0		78

## 宿泊収容人数(定員)

単位：人

市町村名／営業種別	ホテル	旅館	簡易宿所	下宿	計	合計
北杜市	明野町	37	48	242	0	327
	須玉町	218	901	709	0	1,828
	高根町	210	2,388	2,799	0	5,397
	長坂町	120	527	450	0	1,097
	大泉町	805	1,664	2,739	0	5,208
	白州町	0	119	938	0	1,057
	武川町	0	308	163	0	471
	小淵沢町	438	1,037	579	21	2,075
富士見町	52	559	2,691	0		3,302
原村	69	356	1,295	0		1,720

\* 注意：上記は、旅館業法の届出資料（2017年8月31日時点）を基に、判断できる範囲で廃業施設を除いた数値

## ウ 観光地づくりを達成するための課題

既存文献調査や市町村や観光事業者等へのヒアリング調査から、当観光圏における観光振興上の課題を市町村別、地域共通別に整理すると以下ようになる。

### (ア) 市町村別の課題

#### a 北杜市

##### 【観光資源・地域資源について】

- ・ 自然、歴史・文化、産業、農産物等多様な観光資源に恵まれており、滞在型観光地としての潜在性も優れているが、それらに対する意識や認知度の低さもあり、特に冬期において、資源が有効に活用されず、魅力を十分に発揮できていないので、それらを活かす環境づくりを進めていく必要がある。
- ・ ハヶ岳南麓の穏やかで豊かな自然や里山・森林、牧場・農園等の環境や景観を活かした体験活動、桜やその他の花、美術館・博物館、信玄公ゆかりの歴史資源、農産物等の特徴ある地域資源を活かす施策により、地域のブランド化を図る必要がある。
- ・ 日本有数の山岳を初めとする優れた自然景観を活かすため、登山道や遊歩道、ビューポイントの整備、利便性を高めるトイレや駐車場の整備などを進める必要がある。
- ・ ユネスコから生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）として登録された南アルプスの生物多様性と人間社会の共生・共存を図っていく必要がある。

##### 【宿泊施設について】

- ・ グリーンツーリズムやエコツーリズム等と結びついた宿泊体験プログラムや休養・リフレッシュのための滞在プログラムなど、地域資源の特徴を活かした宿泊滞在プランを充実させ、宿泊客を増加させる必要がある。
- ・ 民泊は、法制度が整備され、利用者の選択肢のひとつともなるため、宿泊すること自体を体験と考えて、連携等していく必要がある。
- ・ 訪日外国人旅行者に対応すべく品質認証制度を導入して、利用者にわかりやすい表示をしていくことと合わせて、施設をレベルアップさせていく必要がある。
- ・ 繁忙期と閑散期、夏期と冬期の稼働偏差を少なくする必要がある。
- ・ 多様なニーズに対応するため、グランピング(車中泊)などの導入も検討する必要がある。

##### 【交通について】

- ・ 北杜市は面積が広大で観光ポイントが分散・点在しているので、周遊性を向上させるため、農道や林道の観光利用も合わせた道路のネットワークの整備が必要である。
- ・ J R の列車との接続、バス路線間の接続の利便性の向上も含め、2次交通の充実が必要である。

- ・ 2次交通の整備と合わせた遊歩道や登山道の整備による総合的な交通ネットワークの整備が必要である。
- ・ 訪日外国人旅行者における羽田や成田空港から圏域への来訪ルートや手段等の情報収集とともに、訪日外国人旅行者へのアクセス情報提供が必要である。
- ・ 羽田や成田空港からのバスや鉄道による直行便も望まれる。

#### 【食について】

- ・ 訪日外国人旅行者への対応として、メニュー等表示の多言語対応やムスリム、ベジタリアン等の食文化への対応が必要である。
- ・ 世界に誇る水や恵まれた自然環境から生み出される地域食材を活かした食のブランド化の取組が必要である。

#### 【体験プログラムについて】

- ・ これまでの自然を活かした体験プログラムとともに、日本、北杜市の文化や歴史、生活に至るまで多様な体験プログラムの開発と提供が必要である。

#### 【観光人材育成について】

- ・ 観光関連の組織や事業者の関係者はもちろんのこと、観光客を迎える地域の住民も含めて「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりについて理解と意識の向上を図り、訪れた人を迎える“もてなしの心”を育成していく必要がある。
- ・ 地域の魅力を伝え、滞在の楽しみのお手伝いをする体験プログラムのインストラクターや観光ガイドを養成する必要がある。

#### 【情報提供・発信について】

- ・ 主要な駅や道の駅の観光案内所の機能を充実させ、訪日外国人旅行者も含め、観光客のニーズに応じた的確な情報提供を行う必要がある。
- ・ ホームページを充実させるとともに、フェイスブックやInstagram等のSNSも利用した情報提供・発信を進める必要がある。
- ・ 「世界に誇る水の山」宣言を行い取り組む水の山プロジェクトを推進し、日本を代表する名水の地としてのブランドを発信していく必要がある。
- ・ ハヶ岳DMSの利活用の促進を図るため、更に圏域事業者にしめ細かな説明会等を実施していく必要がある。
- ・ 国内旅行者は、首都圏からの来訪者が多くを占めている状況にあり、特に冬においては、道路状況による来訪手段の不安が少ないと思われる中部、上信越等からの来訪者へアプローチしていくことも検討する必要がある。
- ・ 観光圏整備法、観光圏やブランド観光地域、DMO法人登録制度等を、圏域内の事業者や市民へ分かりやすく伝え、理解を深めていく必要がある。

#### 【訪日外国人観光客の受入れについて】

- ・ 訪日外国人観光客のニーズを的確に捉え、従業員等の外国語対応や通訳ガイドとの連携を含め受入体制や情報提供体制を充実させていく必要がある。

#### b 富士見町

#### 【観光資源・地域資源について】

- ・ ハケ岳、入笠山、里山等の自然環境が重要な資源であり、保全を図りつつ、活用していく必要がある。
- ・ パノラマリゾートと富士見高原リゾートの 2 大拠点を最大限活用するとともに、新たに第 3 のシナリオを策定し、地域の資源を活かし、観光地としての魅力アップとアピールの強化を図っていく必要がある。
- ・ 創造の森等の資源の利用のしやすさの向上、棒道等の資源の整備など観光資源の積極的な活用を図る必要がある。
- ・ 鉢巻道路の遊歩道やビューポイントの整備が望まれる。
- ・ 工場見学や農業体験など、農商工連携した観光拠点を増やしていく。
- ・ 富士見高原リゾートで推進するユニバーサルフィールドづくりを広域圏で展開していく。

#### 【宿泊施設について】

- ・ ペンションは、世代交代、観光客のニーズの変化等の中で数が減少し、ペンションの活性化は大きな課題である。

#### 【交通について】

- ・ 首都圏からのアクセスを向上させるため、小淵沢駅に停車する特急の増便と接続するバス交通の整備が望まれる。
- ・ 交通ターミナルからのアクセス及び観光ポイント間の移動のための 2 次交通を整備する必要がある。

#### 【観光人材育成について】

- ・ 観光ガイドや体験のインストラクターを養成していく必要がある。
- ・ 定期的なワークショップ等開催により、関係者の意識向上の機会を増やす必要がある。

#### 【情報提供・発信について】

- ・ 魅力づくりとあわせて情報発信を強化し、観光地としての知名度を高める必要がある。

る。

#### 【その他】

- ・ 観光事業者、観光関係組織間の連携とともに他産業の関係者との連携を進めていく必要がある。

#### 【訪日外国人観光客の受入れについて】

- ・ 外国語対応のガイドツアーや、宿泊施設での受入体制がとれる形態をつくる必要がある。
- ・ アクティビティの充実を図る必要がある。

#### c 原村

#### 【観光資源・地域資源について】

- ・ ハケ岳の八つの頂が見える景観の魅力と自然環境、約 2,000 名の収容力を有する落ち着いた雰囲気のパension等の宿泊施設を活かし、滞在型の観光を進めていく必要がある。
- ・ 滞在型観光を推進するため、農業関連の資源や森林資源等新たな資源の活用により体験活動等の新たな魅力づくりが必要である。
- ・ 村内の既存の観光施設の連携を図るとともに、ハケ岳高原ミュージアム・リングやハケ岳山麓スーパートレイル等の取組みの一層の強化も含め、ハケ岳をめぐる地域の観光施設等との有機的な連携を進めていく必要がある。
- ・ 星・音楽をテーマとした原村ブランドを一層強化していく必要がある。

#### 【宿泊施設について】

- ・ 観光施設やパension等の宿泊施設は、現在の魅力や特徴を活かしつつ、観光客のニーズの変化に対応して機能の再生を進める必要がある。

#### 【交通について】

- ・ 新宿からの直行バスが平成 17 年度に廃止され、高速バスの中央道原バス停からはタクシー利用しかなく、高速バスによるアクセスの利便性がよくない。
- ・ 村内の移動の利便性の向上とともに、富士見町、さらには北杜市の観光との連携を図るための 2 次交通の充実が課題である。

#### 【観光人材育成について】

- ・ 滞在型観光を推進するため、受入れを担う農業家やクラフトマン、あるいはイベントに関わる住民等を育成し、連携していく必要がある。
- ・ 体験プログラムのコーディネーター、オペレーターの育成が必要である。

### 【観光情報提供・発信体制について】

- ・ 主な観光案内箇所は、第1ペンションビレッジ内にある原村観光連盟が運営する観光案内所に限られるため、来訪した観光客に対する情報提供体制を充実させる必要がある。
- ・ 平成22年度からの観光圏事業において山梨県北杜市との連携は進んでいるが、山梨県側の観光情報が少なく、観光客の周遊には不便となっている。連携を図り一体的な情報提供・発信を進める必要がある。
- ・ 村内の各観光施設や、他産業との連携を進めるため、それらを結んだ情報のネットワークを構築する必要がある。
- ・ 原村ホームページの充実等、観光客にわかりやすい情報提供・発信を進める必要がある。

### (イ) 地域共通の課題

#### 【観光まちづくりに取り組むスタンスについて】

- ・ 圏域が山梨県と長野県にまたがっているため、県境で観光情報の断絶やバス路線の断絶など観光客の周遊行動にとってのマイナス要因が大なり小なり多々存在するので、それらを取り払う取組みを推進する必要がある。
- ・ 北杜市と富士見町や原村とでは自治体の規模がかなり違い、観光入込み客数にも大きな差があるが、それらの自治体の単位は観光客にとっては意味がなく、個々の観光地の魅力と地域全体での魅力が重要なので、個々の観光地のレベルアップと相互の連携に努めることが肝要である。
- ・ 圏域内には清里という比較的知名度が高く、多くの観光客を集めている観光地があるが、宿泊滞在の促進等、今後の発展を目指すには八ヶ岳（あるいは八ヶ岳南麓）地域としての魅力と知名度のさらなるアップを図っていく必要がある。
- ・ 八ヶ岳南麓に広がる豊かな自然環境と美しい景観がこの圏域のかけがえのない財産であり、そこに育まれた歴史、文化や産業等も含め、それらと調和し、それらを活かした観光地づくりを進めることが肝要である。
- ・ 優れた景観が保全され、魅力ある地域が形成されることがこの圏域の観光の振興には不可欠であり、地域住民による魅力あるまちづくりと一体となった観光振興を進める必要がある。また、趣味や外食、ショッピング、その他の余暇活動の場として住民が観光関連の施設を利用したり、生き甲斐や楽しみの場として観光客との交流に参加したり、あるいは住民が自ら観光事業に参画したりと、住民にとってもプラスとなる様々な機会を提供するような観光まちづくりを推進することが肝要である。

#### 【観光資源・地域資源について】

- ・ 多様な観光資源や多数の観光施設があり、体験メニューやイベントも多いが、それらの魅力が十分に発揮されていなかったり、有機的な連携が図られていなかったりして、圏域の特徴的な魅力になりきれていない。
- ・ 豊かな自然を有する滞在型観光地、文化性の高い文化的活動の盛んな観光地、多様な体験活動が楽しめる観光地など、八ヶ岳南麓のエリアとしてのブランドイメージづくりを進めるとともに、八ヶ岳ブランドの商品の育成や開発に取り組む必要がある。
- ・ 八ヶ岳、南アルプス、富士山、瑞牆山等の山岳の眺めはこの圏域の重要なアイデンティティの一つであるが、その眺めを活かし、楽しめるビューポイントの整備や情報提供が不十分である。特に、訪日外国人旅行者に対する世界文化遺産である富士山の眺望をアピールできていない。
- ・ 登山道や遊歩道等の優れた自然を楽しむための施設や案内板、トイレや駐車場等の便利施設が十分に整っていない。
- ・ 北杜市明野町の重要文化財の八代家住宅のある標高の低いエリアから原村中央高原や清里などの高原エリアの間には約 1,000m の標高差があり、桜やその他の花、紅葉の時期や農産物の収穫時期などの期間が長いので、そのことをこの圏域の特徴としてアピールするような観光の推進が必要である。
- ・ グリーンツーリズムやエコツーリズムには一部で受入れがなされているが、この圏域の自然環境や田園・農村環境からすると十分に対応できていないため、圏域の特徴としてのアピールに結びついていない。
- ・ 観光圏のシンボルとなるような着地型旅行商品や滞在プログラムを造成し、情報提供していく必要がある。
- ・ 圏域の資源を活かした冬期の誘客策を推進する。
- ・ 廃屋や休業施設等、観光地のイメージを損なう建造物が目につくところがある。

### 【交通について】

- ・ 鉄道のアクセスは J R 中央本線の特急列車で、停車駅は韮崎、小淵沢、富士見、茅野の各駅であるが、茅野駅以外は、運転間隔が 2 時間程度以上あく不便な時間帯もある。
- ・ 駅からの接続は、増富方面へは韮崎駅からの「茅ヶ岳・みずがき田園バス」、清里エリアは清里駅・甲斐大泉駅を通る「清里ピクニックバス」、富士見町、原村方面へは小淵沢駅から「鉢巻周遊リゾートバス」が運行されているが、運行本数が十分とはいえず、路線によっては平日の運休便や冬期の運休があるなど、アクセス交通の利便性は十分とはいえない状況にある。
- ・ 自動車利用は農道等も含めた圏域内の道路網の整備が進みつつあり、中央自動車道等から各エリアへのアクセス、圏域内の周遊は比較的便利になりつつあるが、高速バス利用の場合はバス停からの接続交通が不十分である。
- ・ 観光圏のエリア内を周遊するための 2 次交通については、一部の区間は前記のバス



を利用できるが、全体としては周遊には適さない状況にあり、タクシーのルート別運賃制度の活用等も含め検討していく必要がある。

- ・ 観光圏内の2次交通の整備と、観光フリーパス等の利用しやすいチケットの導入については検討課題である。

### 【情報提供について】

- ・ 圏域が山梨県と長野県にまたがるため、圏域内での情報の共有化を進め、より積極的に来訪者に対し情報提供をしていく必要がある。
- ・ 現在立ち上がっているウェブサイトの情報は、観光客へのアピール（つかみ）、見やすさ、利用しやすさ等を考慮し圏域の情報が集約された構成となっているが、国内旅行者のみならず訪日外国人旅行者に対しても、より利用者のニーズに合わせた改良を重ねていく。
- ・ 主要な鉄道駅や道の駅の案内所はもちろんのこと、利用者の多い観光施設や直売所、トレイル・ハイキングルート等においても訪日外国人旅行者も意識した観光案内及び情報提供機能を充実させる必要がある。
- ・ 圏域の核となる観光案内所では、訪日外国人旅行者も含め来訪者への対応の他、ワンストップサービス窓口等観光客の情報ニーズに応じた的確に対応できる体制を構築する必要がある。
- ・ アクセス交通や2次交通についての情報、観光施設の営業時間や休業日、料金等の情報など、最新で実用性のある情報の提供を行えるようにする必要がある。
- ・ 情報が適宜更新され、圏域内の情報を共有している施設等に速やかに伝わる体制を構築する必要がある。
- ・ 訪日外国人旅行者の誘致及び受入に合わせた観光情報の整備と、情報発信・提供を行っていく必要がある。
- ・ 訪日外国人旅行者を積極的に誘客するため国外における商談等を行う企業や団体等に対して、支援していく必要がある。
- ・ 訪日ムスリム外国人旅行者の宗教的・文化的な習慣に対応する整備と情報提供がされていない。

### 【観光人材育成について】

- ・ 旅行者を迎える様々な場面で、観光地域づくりマネージャーを中心にお客様を暖かく迎えようとする“もてなしの心”を、観光関係者をはじめ、観光客と接する機会のある人たちに広く醸成していく必要がある。
- ・ 各地域における八ヶ岳エコトウリズムガイド等の人材を積極的に育成する必要がある。
- ・ ガイドやコンシェルジュのスキルアップや情報交換に資するとともに、人材を有効活用するために、核となる観光案内所も交え、ガイドや所属組織等のネットワークの

構築を図る。

- ・ 訪日外国人旅行者の受入れに対する抵抗感を取り除く意識改革やその必要性の共有、観光案内等直接対応する人材の育成を進める必要がある。

### 【広域連携について】

- ・ 圏域内における合意形成が進み、これまで観光圏としての事業を推進してきたが、訪日外国人の獲得には、全国観光圏推進協議会や広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」等、広域周遊観光促進に資する組織との連携を図る必要がある。

### （ウ） 地域に根ざした固有の魅力

八ヶ岳観光圏では、構成する3市町村個別の問題点及び観光圏共通の問題点を地域の特性及び現状を踏まえSWOT分析を行った結果の結果は下記のとおりである。

八ヶ岳観光圏の「強み」は「自然」「星空」「芸術」「爽やかな気候」等住みやすい環境であり、反面「弱み」として「2次交通」「情報発信力」「認知度の低さ」等インフラ整備の低さがあげられている。また「機会」は「ブランド力」「癒し健康志向」「環境への意識」等自然環境のすばらしさであり、「脅威」として「地域間競争激化」「厳冬イメージ」等があげられている。

このSWOT分析を元に他の競合するエリアに勝る八ヶ岳のキラーポイントを味方につけ、「弱み」、「脅威」を克服する事業を展開し、「日本の顔」といえる当地域の価値「標高差が織り成す二季空間（複数の季節を体感）と、地域の多様な生産物と暮らしが見せるギャップ」で地域に根ざした固有の魅力を発信していく必要がある。

#### ○八ヶ岳のキラーポイント

- ・ 域内の標高差・・・1000mの標高差による、面ではない空を含む空間移動
- ・ 様々な山々・・・空とのコントラスト（他地域は象徴的な単一の山がメイン）
- ・ 地域の印象・・・クリーン・エコ ⇒ 清流と日照時間・洗練された街（芸術の街）
- ・ 域内ギャップ・・・標高差・人の暮らしや文化・自然の恵みからの生産物とその活動

### ◆SWOT分析結果

内部環境	強み	自然・星空・都心から至近・食・高原リゾート(ブランド)・温泉・芸術・欧風の雰囲気・1000メートル・山の魅力(景観・スポーツ)・爽やかな気候
	弱み	2次交通・情報発信力・日帰り観光・人材育成・認知度低い・地域連携(事業者・住民)の弱さ
外部環境	機会	ブランド力・節電対策・ロケ地・癒し健康志向・環境への意識・FIT化・農山村教育・アラフォー世代・山ガール
	脅威	地域間競争激化・定住者減少・厳寒イメージ・訪日外国人減少・温暖化／環境破壊・レジャー多様化(スキー減少)・交通インフラ向上

◆競合地域との比較

	軽井沢	富士五湖エリア	那須高原	ハケ岳エリア
クラスターのイメージ	若い女性 シニア夫婦(富裕層)	ファミリー／社員旅行(研修)	ファミリー／若い女性	ファミリー(夏季)／熟年
キラーコンテンツと地域のイメージ	圧倒的・国際的な避暑地イメージ ゴルフ／テニスなどスポーツ	富士山／湖	ファミリー施設(テーマパーク) 温泉	ハケ岳(含む景観) 澄んだイメージ(星空など)
標高	900～1000メートル	800～900メートル	400～500メートル	<b>400～1400メートル (標高差1000m)</b>
気候	・年間平均気温：10.2度 ・8月平均気温：22.6度 ・冬季最低気温：－15度 ・降水量(ミリ)：1000～1500 ・日照時間：1880時間	・年間平均気温：10.6度 ・8月平均気温：23.0度 ・冬季最低気温：－8度 ・降水量(ミリ)：1600～1700 ・日照時間：1750時間	・年間平均気温：9.3度 ・8月平均気温：21.1度 ・冬季最低気温：－21度 ・降水量(ミリ)：1900～2000 ・日照時間：1540時間	・年間平均気温：10.7度 ・8月平均気温：22.3度 ・冬季最低気温：－15度 ・降水量(ミリ)：1100～1200 <b>・日照時間：2080時間</b>
交通手段 (2次交通含む)	首都圏から車で約2時間半 首都圏から新幹線で1時間半 中心エリアまでは徒歩圏内	首都圏から車で約2時間弱 富士急行線／中心エリアまでの路線バス充実	首都圏から車で約2時間弱 新幹線約1時間強 バスはホテルまたは路線バス(1時間に1～2本程度)	首都圏から車で約2時間半 あずさにて約2時間(小淵沢) エリア内リゾートバスなど
宿泊施設 (イメージ含む)	ホテル・ペンション (別荘のイメージも)	温泉旅館／ホテル	温泉旅館／ホテル	ペンション／ホテル (全体的に宿泊のイメージ弱い)
着地商品 体験プログラム	自然を中心とした取組多し (美術館巡り／動物ウォッチング)	家族向けアクティビティ多し (湖を活かした展開)	山岳・トレッキング系 美術館・ものづくり多数	自然を活かした展開 山岳・トレッキング系 農業(酪農)体験など

## (エ) 観光圏の整備に関する基本的な方針

前述の観光圏を実現するためには、恵まれた地域の資源を活かし多様な魅力を創造し、利用環境を整え、それらの情報を発信していく必要がある。

そのようにして国内外の様々な人に喜ばれる滞在型観光地を創造していくために、以下に掲げる5つの方針を設定する。

### ◆基本方針1. 広域周遊観光の滞在型観光地としての八ヶ岳ブランドの形成

東京から2～3時間圏、富士山圏域から1～1時間半に位置し、八ヶ岳、南アルプス、富士山、瑞牆山などの優れた山岳の眺望と豊かな自然環境の中で、散策、スポーツ・レクリエーション、ティータイム、食事等を楽しみ、のんびりくつろぎ、手近にアートに接し、音楽を楽しみ、星空を眺め、あるいは地元の人と馴染みのように会話を楽しむ。

そこにあるのは特別なメニューではなく、景観・環境を付加価値とした質の高い日常の延長のような体験である。八ヶ岳の湧水や南アルプスの清流がもたらす名水のような素材の品質、焼きたての上質なパンや清泉寮のソフトクリームのような商品の品質、“もてなしの心”がもたらすサービスの品質がそれを生み出す。しかも1,000mの標高差が織りなす微妙な時間軸のずれが訪れる人に心地よい違和感と、日照時間の長さがどこの競合する観光地より活動しやすい環境を与え、そこに様々な滞在プログラムを組み合わせることで、居心地の良い、飽きの来ない滞在型観光地としての魅力が発揮される。

特徴のある優れた景観と訪れる人それぞれに様々な滞在プログラムを発信していくことで、広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」等広域周遊観光の滞在型観光地としての八ヶ岳ブランドのイメージを形成していく。

### ◆基本方針2. 魅力の選択肢づくりによる連泊滞在、リピートの促進

旅行者の連泊滞在やリピートの促進には、魅力の多様な選択肢があることが不可欠である。楽しみ方を自分の好みや気分で選択したり、順番に楽しんだり、同行者に合わせて選んだり、あるいは旬の味覚のようにその時々ベストのものを選択したり、お得なプランを選択したり、朝・昼・夕・夜という時間帯の違いがもたらす魅力を楽しんだり、また、季節ごとの魅力を目的としたりと、様々な選択ができるところが飽きの来ない豊かな場所となる。

そのような魅力の選択肢を豊かにするためには、外国人の目線、マーケティング調査(満足度調査)に基づいた地域資源の有効活用が必要不可欠であり、歴史や文化、芸術、食等様々な地域固有の資源を再評価しながら、それらを顕在化させるとともに、地域ならではの魅力や質の高さの魅力、組合せによる魅力、人やサービスあるいは景観等の付加価値による魅力など、選択できる滞在プログラムを豊富化させて行く。

また、この圏域は標高の低い塩川下流の北杜市明野町から原村中央高原や清里の高原

エリアの間には約 1,000mの標高差があるので、季節の訪れる時期に差があり、例えば桜の開花を追って旅することができるし、あるいは4月上旬の桜を見逃しても4月下旬の桜を楽しむことができるというような選択肢もある。

#### ◆基本方針3. わかりやすくスムーズな利便性の高い交通環境の整備

国内外からの来訪者、特に訪日外国人旅行者を意識し、JR中央本線への首都圏空港からの直通便乗り入れや、特急列車の停車本数の増加と、それに接続する圏域内の各地域へアクセスするバス路線やタクシー等の充実、高速直通バスの導入、高速バスの拡充と停留所からの接続バスの導入などにより、八ヶ岳観光圏へのアクセス交通を充実させていく。既存の「茅ヶ岳・みずがき田園バス」、「清里ピクニックバス」の拡充や再編も含めた圏域内の観光ポイントを結ぶ路線の充実、登山道や遊歩道の起終点へアクセスする路線の整備等、利用しやすい2次交通のネットワークの整備等により、訪日外国人旅行者にもわかりやすくスムーズな利便性の高い交通環境を実現していく。

また、自動車利用者には農道や林道等も合わせた観光利用に適した道路網の整備とわかりやすい多言語の案内サインの整備により、安全性、走行性、目的地への到達利便性の高い道路環境を実現するとともに、道の駅等の休憩機能、情報提供機能を備えた立寄り拠点を適宜整備して利用の利便性を向上させていく。

公共交通機関ではフリーパスの導入等により、訪日外国人旅行者等の利用しやすさを向上させるとともに、マイカー来訪者の公共交通機関の利用を促していく。

#### ◆基本方針4. 観光情報の整備・共有化と実用性のある情報発信・提供体制の整備

これまで県境で断絶していた観光情報とマーケティング機能を一体化した八ヶ岳DM Sの充実を図り、圏域内及び日本政府観光局（JNTO）や広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」とも共有するとともに、適宜更新をしていく。

整備した情報はプロモーション用に、あるいは国内外の観光客のニーズに応じた的確に発信、提供できるように整理・加工し、ホームページや観光パンフレット、観光マップ等の媒体にして活用する。

また発行物等は圏域内外の主要な鉄道駅や道の駅、観光地の入口その他の観光案内所に加え、利用者の多い観光施設や直売所等の施設でも観光案内や観光情報の提供を受けられるようにする。将来的には、小淵沢駅観光案内所や道の駅こぶちさわ観光案内所で、観光客へのワンストップサービス窓口の機能や電話やメール等による問合せへの対応、滞在プログラム紹介等を行うようにする。

訪日外国人旅行者に対しては、宿泊施設の品質認証制度の情報を加えるなど、パンフレットやホームページによる案内を充実させ、ニーズの高まりや利用者の状況を踏まえ、地域特例通訳案内士など通訳ガイドとの連携や外国語対応の案内スタッフの育成、インターネットによる通訳サービスの活用を図る。

◆基本方針5. 魅力ある地域づくりを担う人づくり

観光客の多様なニーズに対応し、観光地域づくりマネージャーを中心に質の高いサービスを提供できる観光人材の育成や、地域資源を活かした各種滞在プログラムのガイド等の養成、訪日外国人旅行者の受入れに対応できる人材の育成、地域の優れた景観や環境を守り育てる地域住民の育成など、魅力ある地域づくりを担う人づくりを推進する。

◆基本方針6. 広域周遊観光促進に資する観光圏としての役割

広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」に位置する八ヶ岳観光圏は、これまで観光圏として観光地域づくりプラットフォームが主体となり観光地域ブランドの確立を進めてきた経験やノウハウを活かし、雪国観光圏らとともに、国内外からの観光旅客に対し、広域周遊観光の促進に資する取り組みの中核的な滞在観光地として、国や県、他の観光圏、日本版DMO法人らと連携しながら、推進していく。

補足：

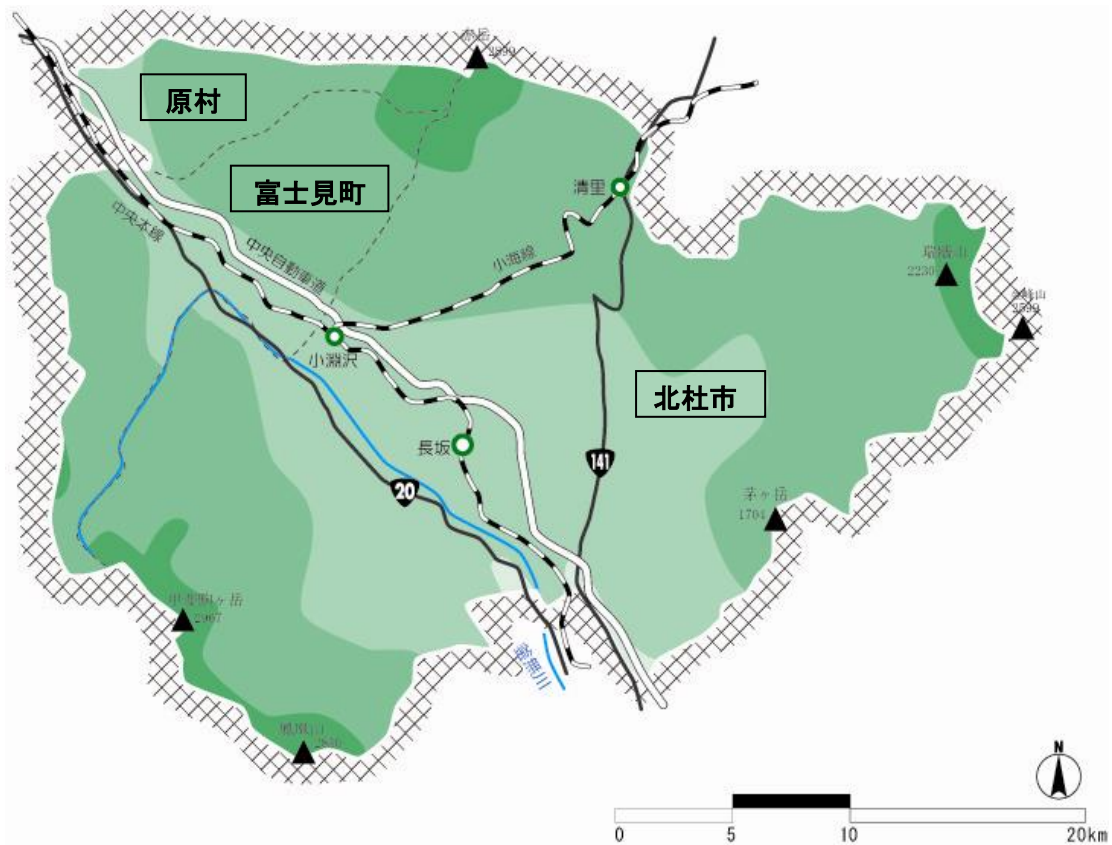
○雪国観光圏・・・新潟県の魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南市、群馬県のみなかみ町、長野県の栄村の7市町村を圏域とする観光圏

○広域関東周遊ルート「東京圏大回廊」・・・11都県（福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県）での広域観光促進地域

## (2) 観光圏の区域

### ア ハヶ岳観光圏の区域

山梨県：北杜市、長野県：富士見町、原村



### イ 設定理由

ハヶ岳観光圏を構成する山梨県北杜市、長野県富士見町及び原村は山梨県と長野県の県境にそびえる日本百名山の一つであるハヶ岳の主峰赤岳より南側に広がる地域で県境を挟んで東側の北杜市、西側の富士見町及び原村が位置し、ハヶ岳南麓の豊かな自然環境と長い日照時間、夏季は冷涼、ハヶ岳や南アルプスの眺望、富士山が遠望される優れた景観を有している地域である。またその豊かな自然は、約30分以内の移動で標高差が1,000mにもなる変化のある地形のため、花や紅葉の時期のずれや農産物の収穫時期や種類の違い等にも変化が見られる。

このエリアは古くは約5,000年前、縄文文化といわれる共通の文化が栄え、縄文銀座とも云われるほど多くの人々が住み、素晴らしい造形の土器をつくり栄えた地域であった。また以前より別荘戸数が定住戸数とほぼ同じくらいあり、現在も癒しを求め別荘が建ち、美術館や工房等も数多く点在し、芸術家やクラフトマン等が創造の地として移り住み工房等を開いている状況は縄文時代から現在まで「住んでよし」を実証しているエリアである。

現在、このエリアに住む人々は北杜市から日用品の購入のため富士見町のショッピングモ

ールを訪れたり、病院の利用、小中学、高校生が近くにある学校へお互いの県域を越え通学していたり、八ヶ岳エリアの生活圏は県域を越えお互いの不便な部分を補い合ってきた。

平成20年に行政や観光協会等団体等で環境美化や自然保護を目的として南北八ヶ岳保護管理運営協議会（北杜市、富士見町、原村を含む10市町村）を設立し活動を行っているほか、北杜市と富士見町は隣接することから平成18年に広域消防相互応援協定を結んでいる。また民間宿泊施設及び日帰り観光施設が連携し2次交通等の事業を手がけていた「八ヶ岳南麓やとわれ支配人会」、美術館や博物館では「八ヶ岳ミュージアム協議会」、花卉園芸等では「八ヶ岳グリーンネットワーク」が立ち上がり交流を深め、また事業を展開している。

平成27年には、中心地を北杜市とし、富士見町、原村とともに「八ヶ岳定住自立圏」として、市町村が相互に連携と協力を行い、圏域全体の生活機能の強化等に取り組み、定住人口の確保と地域活性化を図る取り組みを行っている。

このエリアは、首都圏から2～3時間圏に位置し、圏域の玄関口である北杜市小淵沢町は、県域を越えたエリア内の交流地区のほぼ中心であり、車で30分以内で主たる滞在促進地区である小海線沿線滞在促進地区や圏域内に点在している八ヶ岳南麓高原交流地区をはじめとする各交流地区が放射状に位置している。そのため、主に車でのアクセスを「道の駅こぶちさわ観光案内所」、鉄道でのアクセスは「小淵沢駅観光案内所」が情報提供の核となり、それぞれのエリアで来訪者が望む滞在プランを提供することができる範囲であることから八ヶ岳観光圏の区域に設定した。

## ウ 連絡先

八ヶ岳観光圏整備推進協議会事務局

所 在 山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1

名 称 北杜市役所産業観光部観光課

事務局長 観光課長 加 藤 郷 志

E-mail : katou-sat@city.hokuto.lg.jp

事務局員 観光課観光振興担当 仲 山 直 樹

E-mail : nakayama-nao@city.hokuto.lg.jp

溝 口 有 紀

E-mail : mizoguchi-yuk@city.hokuto.lg.jp

T E L 0 5 5 1 - 4 2 - 1 3 5 1

F A X 0 5 5 1 - 4 2 - 5 2 1 6

(※平成30年3月23日現在)



### (3) 滞在促進地区の区域

#### ア 主たる滞在促進地区

名 称 小海線沿線滞在促進地区

設定理由 J R小淵沢駅から清里までの小海線沿線周辺は、圏域で最も、大型のホテルや個人経営のペンションが集積している地区である。また、圏域の魅力を最も象徴する「県営八ヶ岳牧場天女山分場」等の観光資源、観光施設等も集積している地区である。

圏域への玄関口である小淵沢は、J R中央本線では特急の停車する駅であり、J R小海線の起点、そして2次交通の起点となっている。また自動車利用の場合、中央自動車道小淵沢 I . Cからも程近い場所と利便性もいい。

そのため「道の駅こぶちさわ観光案内所」、「小淵沢駅観光案内所」に、来訪手段それぞれのワンストップ窓口としての機能を持たせることで、主たる滞在促進地区内及び交流地区へ車で、30分以内でアクセスすることが可能となることから本地区を主たる滞在促進地区と設定した。

#### イ その他滞在促進地区

名 称 増富温泉峡滞在促進地区

設定理由 増富ラジウム温泉峡はラジウム含有量世界一とも言われており、一般社団法人護持たまゆら等が中心となり、森林、遊休農地、温泉を活用した自然療法・温泉療養・食育の取り組みが行われている。

名 称 富士見高原滞在促進地区

設定理由 スキー、ゴルフ、陸上競技、編笠山登山など四季を通してスポーツが楽しめる総合リゾート「富士見高原リゾート」を核に、ホテル、貸別荘、ペンションなどの宿泊施設が立地している。日本三大高峰が望める富士見高原創造の森の散策は人気を博している。

名 称 原村ペンションビレッジ滞在促進地区

設定理由 八ヶ岳西麓で、北アルプス、中央アルプス、南アルプスを望む標高約1300メートル位置する原村のペンションビレッジは、日本有数のペンションリゾート。特徴的なペンションが数多く立地している。8つの森の小径が整備され環境・健康・そして感動へのいざないへと繋げている。

主たる滞在促進地区及びその他の滞在促進地区区域図

資料1 参照

### (4) 観光圏整備事業の実施体制

#### ア 主たる滞在促進地区における実施体制

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会、NPO法人清里観光振興会及び八ヶ岳南麓やとわれ支配人会等のほか、圏域外ではあるが長野県南牧村(野辺山)地域も含め小海線沿線で活動している人々が

連携し滞在プログラム、アクセス改善、宿泊サービス改善、人材育成に関するプログラム等を企画、調整する。

また主たる滞在促進地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

## **イ 交流地区における実施体制**

### **●北杜市・八ヶ岳横断歩道交流地区**

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会、NPO法人清里観光振興会及びやとわれ支配人会等のほか、圏域外ではあるが長野県南牧村(野辺山)地域も含め小海線沿線で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また八ヶ岳横断歩道交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

### **●北杜市・金生遺跡・谷戸城址交流地区**

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会及びやとわれ支配人会等谷戸城址周辺で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また金生遺跡・谷戸城址交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

### **●北杜市・オオムラサキ交流地区**

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会八ヶ岳南麓高原エリア部会、北杜市立オオムラサキセンター等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

またオオムラサキ交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

### **●三代校舎ふれあいの里交流地域**

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリア部会、一般社団法人護持たまゆら等三代校舎周辺で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また三代校舎ふれあいの里交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

### **●北杜市・ひまわり畑とフラワーセンター交流地区**

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会太陽と茅ヶ岳・瑞牆山エリア部会、山梨県立フラワーセンター及び北杜市農業振興公社等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

またひまわり畑とフラワーセンター交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

#### ●北杜市・神代桜とこめの郷交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会清流と甲斐駒ヶ岳エリア部会及び神代桜祭り実行委員会、北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会等で活動している人々が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また神代桜とこめの郷交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

#### ●北杜市・歴史と名水の里交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括として、一般社団法人北杜市観光協会清流と甲斐駒ヶ岳エリア部会及び台ヶ原宿周辺で活動している人々、北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また歴史と名水の里交流地区が在る北杜市は全体総括の支援を行う。

#### ●富士見町・入笠山交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、富士見町観光協会及び一般社団法人富士見町開発公社等が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また入笠山交流地区が在る富士見町は全体総括の支援を行う。

#### ●富士見町・第3のシナリオ交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、富士見町観光協会等が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また第3のシナリオ交流地区が在る富士見町は全体総括の支援を行う。

#### ●原村・8つの頂を望む高原交流地区

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが全体総括をして、原村観光連盟及び一般財団法人八ヶ岳自然文化園等が連携し実施主体となり滞在促進に関わる企画、実施を行う。

また8つの頂を望む高原交流地区が在る原村は全体総括の支援を行う。

### (5) 観光圏整備計画の目標

#### 「1, 000mの天空リゾート八ヶ岳 ～澄みきった自分に還る場所～」

八ヶ岳観光圏の特徴は、「その昔、富士山と八ヶ岳が背比べをして、八ヶ岳は、日本の最高峰富士山を凌ぐ高さであった」と地域に民話として伝わるように、上層部は主峰赤

岳や権現岳等鋭く切立つ峰々、下層部は東西約31km、南北約41kmと広大なスケールで裾野が広がる、言わば山岳リゾートと高原リゾートの2面を併せ持つところにある。

そのため、八ヶ岳南麓の豊かな自然環境と、八ヶ岳や南アルプス、瑞牆山等の眺望、さらに富士山が遠望される優れた景観を有する地域であり、そして、圏域内を約30分の移動時間で約1,000mの標高差を移動する“標高1,000mの立体空間”のため、花や紅葉等が織り成す日本の四季を2シーズン味わうことができる。

また、約5,000年前の縄文時代。縄文銀座と伝わるほど多くの人々が住み、素晴らしい造形の土器をつくり、栄えた地域であったことは、癒しを求め別荘が建つ状況、芸術家やクラフトマン等が創造の地として移り住み、工房等を開いている状況にも通じており、日本のミネラルウォーターの約3割を生産する名水の地であること、標高1,000mの気圧は、胎内圧に近い環境とも言われることと合わせ、安住の地であることも八ヶ岳観光圏のもつ魅力・価値である。

首都圏から約2時間という距離で、傑出した観光資源等があるわけではないが、過ごしやすい優れた自然環境や景観の中で滞在を楽しむことができる観光圏として、来訪者に「標高1,000mの癒しの空間と標高差1,000mの織り成す立体空間」の八ヶ岳の、「高原リゾート×山岳リゾート×青空・星空」の魅力で、「リセット (Reset)、リフレッシュ (Refresh)、リボーン (Re・born)」できる場所が提供できるエリアを目指す。

そのためには、エリア内に住む人々が地域に自信と誇りを持ち、四季折々の自然の中で楽しく生活できる環境を整えることが必要であり、その推進役としての観光地域づくりマネージャーや各種コンシェルジュ等の育成を毎年継続して行い、このエリアがいつまでも住む人々にとって「澄みきった自分に還る場所」であり続けること、また「澄みきった自分に還る場所に住む人々」とふれあったことが、来訪者にとってどこよりも「澄みきった自分に還る場所」となることを目標とする。

### ①量的目標（観光客数、宿泊客数）

当観光圏は既に多くの国内観光客が来訪している観光地であるが、人口減少、少子高齢化の影響もあり、今後、国内旅行者に関し、量的（観光客数、宿泊客数）には大きな伸び（率）を見込むことが難しいものの、訪日外国人旅行者に対する施策を重点的に進めることにより、観光圏整備計画の目標年次である平成34年度には量的にも一定の成果が得られるよう、観光圏整備事業を組み立て、その確実な推進を図っていくこととする。

なお、目標数値の設定に当たっては、観光圏域と同一圏域である八ヶ岳定住自立圏共生ビジョンにおける目標数値と構成する市町村の総合戦略における目標数値を設定することとする。年次毎の評価は、その都度、景気の動向や当観光圏を取り巻く環境等を的確に捉えて総合的に判断し、次年度につなげていくこととする。

●量の目標（観光客数・宿泊客数）

◆観光客数（延べ人数）＊構成市町村総合戦略目標数値

		平成 28 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年	平成 33 年	平成 34 年
北杜市	人	6,038,924	6,342,000	6,560,000	6,778,000	6,996,000	7,214,000
	%	—	—	103	103	103	103
富士見町	人	782,100	813,000	1,000,000	1,030,000	1,060,900	1,092,800
	%	—	—	123	103	103	103
原村	人	193,800	207,880	210,000	212,120	214,240	216,360
	%	—	—	101	101	101	101
計	人	7,014,824	7,363,880	7,770,000	8,020,120	8,271,140	8,523,160
	%	—	—	106	103	103	103

◆宿泊客数（延べ人数）＊八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン目標数値

		平成 28 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年	平成 33 年	平成 34 年
北杜市	人	881,822	1,013,750	1,030,000	1,046,250	1,062,500	1,078,750
	%	—	—	102	102	102	102
富士見町	人	86,200	102,850	107,600	109,700	119,000	121,500
	%	—	—	104	102	102	102
原村	人	113,800	112,991	114,088	115,185	116,282	117,379
	%	—	—	102	101	101	101
計	人	1,168,022	1,251,591	1,251,688	1,271,135	1,297,782	1,317,629
	%	—	—	102	102	102	102

※注意：宿泊者数について、北杜市及び富士見町は実人数

◆外国人宿泊客数（延べ人数）＊八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン目標数値

		平成 28 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年	平成 33 年	平成 34 年
北杜市	人	68,857	97,250	102,000	106,750	111,500	116,250
	%	—	—	105	105	105	105
富士見町	人	174	627	730	765	803	845
	%	—	—	116	105	105	105
原村	人	108	658	674	689	704	719
	%	—	—	102	102	102	102
計	人	69,139	98,535	103,404	108,204	113,007	117,814
	%	—	—	105	105	104	104

※注意：宿泊者数について、北杜市は実人数

## ②質的目標（顧客満足度）

八ヶ岳観光圏では、平成27年度から全国観光圏統一の7段階評価の来訪者満足度調査を実施してきた。最新となる平成28年度の調査結果からは、小学生～高校生の子ども連れ家族の23%を筆頭に、夫婦、未就学児の子ども連れ家族の来訪が全体の半数以上という結果であった。来訪回数は「初めて」が19.6%、2回以上のリピーターが78.2%と割合が多く、旅行全体の滞在種別ではおよそ7割が宿泊客であるが、そのうち約4割は1泊2日、約2割が2泊3日である。

八ヶ岳を訪れる目的は「自然や風景を見ること」が一番多く、「おいしいものを食べること」、「スポーツやアウトドア活動を楽しむこと」が続いている。全観光圏の平均では「おいしいものを食べること」が一番多いが、八ヶ岳観光圏だからこそのすばらしい自然の中での体験等を通じ、心身ともにリフレッシュすることを求める人が多い結果となった。

また、総合満足度については、88.1%と全観光圏の86.7%をやや上回る結果であったが、再来訪の意向は、81.3%と全観光圏平均の62.6%を大きく上回っており、全観光圏でもっとも高い結果であった。

しかしながらこの調査の結果、旅行平均消費金額が、23,571円で、全観光圏の平均32,587円を下回っており、特に、交通費と宿泊費は、全観光圏平均消費金額から4,000円程度下回った。

今後に向けては、長期滞在へ繋げるとともに、多様な訪日外国人旅行者への対応を意識し、地域全体のホスピタリティ向上、宿泊施設を中心とした品質認証、食のブランド化、観光案内サインや情報案内の整備、観光ガイドや通訳ガイドの人材育成等も含めた受入環境の向上に向けた取り組みを行っていくことが大切である。

●主たる滞在促進地区目標値

(1) 来訪者の満足度、紹介意向、再来訪状況、再来訪意向

	単位	平成 28 年 (度)	平成 30 年 (度)	平成 31 年 (度)	平成 32 年 (度)	平成 33 年 (度)	平成 34 年 (度)
●総合満足度		計 88.1	89.0	89.5	90.0	90.5	91.0
大変満足	%	17.3	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0
うち外国人		60.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0
●紹介意向		計 89.5	89.5	89.5	89.6	89.6	89.7
大変そう思う	%	20.4	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0
うち外国人		60.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0
●再来訪状況	%	78.2	78.5	78.5	78.5	79.0	79.0
うち外国人		20.0	21.0	21.0	21.0	22.0	22.0
●再来訪意向		計 81.3	81.3	81.3	81.4	81.4	81.5
大変そう思う	%	23.8	24.0	24.0	24.5	24.5	25.0
うち外国人		20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0

(2) 旅行消費額（一人あたり平均）

	単位	平成 28 年 (度)	平成 30 年 (度)	平成 31 年 (度)	平成 32 年 (度)	平成 33 年 (度)	平成 34 年 (度)
●日帰り	円	8,007	8,500	9,166	9,666	10,166	10,666
●宿泊		29,941	30,000	31,065	31,565	32,065	32,565
うち外国人	円	30,007	31,500	33,102	34,102	35,102	36,102

(3) ホームページへのアクセス数

	単位	平成 28 年 (度)	平成 30 年 (度)	平成 31 年 (度)	平成 32 年 (度)	平成 33 年 (度)	平成 34 年 (度)
●八ヶ岳DMS	PV	394,476	400,000	450,000	500,000	550,000	600,000

●観光地域づくりマネージャーの育成等により地域における継続的・自律的な活動体制を確立するための目標

観光地域づくりプラットフォームである一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントを舵取り役に観光地域づくりマネージャー、八ヶ岳観光圏整備推進協議会等が合意形成のもと、密接に連携・協力を図りながら、事業に取り組んでいく。

また、将来にわたる持続的・自立的な活動体制を確立するために、以下の人材・団体等の育成を目標とする。

●「八ヶ岳エコツーリズムガイド」等の育成と組織の充実

八ヶ岳観光圏内の自然や歴史・文化を多くの方々がより深く感じ、学び、楽しんでもらえるよう「八ヶ岳エコツーリズムガイド」(自然系、まちあるき系)を育成し、通訳ガイドとも連携しながら、八ヶ岳アウトドア・アクティビティーズ等の組織の充実を図る。

●「観光圏整備事業」推進組織の育成・強化

一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが、圏域の舵取り役となる地域連携DMO、観光地域づくりプラットフォームとしての役割を果たせるよう支援する。また、観光地域づくりマネージャーを中心に、国や県、市町村行政職員、圏域団体等で構成するブランド戦略会議を行い、事業の進捗状況の確認や懸案事項の検討を行う。特に重点的に行う事項については、別途分科会を設け行う。

その他、外部講師を招聘するなど、観光地域づくりマネージャーを育成・強化する。

**(6) 計画期間等**

本計画の期間は、平成30年4月1日から平成35年3月31日とする。

ただし、計画の進捗状況や社会情勢の変化及び環境に対する制度等の状況に合わせて、必要に応じて計画の見直しを行う。

●計画の見直しの手順

①協議会代表者である一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントが、定期的に、各事業の進行状況を把握し、管理を行う。

②年度毎に、一般社団法人八ヶ岳ツーリズムマネジメントは各観光圏整備事業者とともに、その実行状況のとりまとめと、次年度以降の計画推進において各事業の改善へとつなげるために課題の抽出や重点的に取り組む事項などの検討を行う。

P D C Aサイクルの考え方に基づき、各事業の実施状況、目標達成状況、今後の実施方針等を整理し、取りまとめる。

\*Plan（計画の策定）-Do（計画の実行）-Check（実施状況の確認・評価）-Action（評価結果の計画への反映・計画の見直し）

上記を「八ヶ岳観光圏整備推進協議会」において点検・評価し、次年度以降の計画推進における事業展開の見直しに反映する。

**(7) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映状況**

八ヶ岳観光圏整備推進協議会は、山梨県と長野県の県境をまたぐ3市町村の観光まちづくりに係わる多種多様な主体を構成員としている点が大きな特徴である。

よって住民その他の利害関係者の意見や圏域内のニーズの把握は、協議会、市町村担当者会議、観光地域づくりマネージャー会議、協議会代表者である(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメントとの打ち合わせ等の開催や市町村別に協議会構成団体等へのヒアリン



グにより行ってきた。

また、協議会代表者である(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメントが、これまでの観光圏の取組と日本版DMOが目指す地域づくりに関するシンポジウムを開催し、質問や意見をいただく場とするほか、観光地域づくりへの意識の高揚を図った。

会議を重ねる中で、観光圏整備計画、同実施計画の作成と、観光まちづくりに対する気運の醸成、観光圏整備事業に対する理解促進を図ってきた中で、これからの観光圏域の将来像を探る観光地域づくりマネージャーが育成されてきた。今後も観光地域づくりマネージャーを中心に地域住民の意見を反映できる体制を整えていく

# ●主な会議等の開催記録

開催日	会議等名称	議題
10月6日	八ヶ岳南麓やとわれ支配人会(セラヴィリゾート泉郷) ヒアリング	・圏域の現状と課題、各団体における課題と取組 ・訪日外国人観光客の状況と対応等(以下、※1)
10月16日	(一社)北杜市観光協会ヒアリング	
10月16日	北杜市商工会ヒアリング	
10月17日	NPO 清里観光振興会ヒアリング	
10月17日	(公財)キープ協会ヒアリング	
10月19日	山梨県観光部観光資源課ヒアリング	
10月19日	八ヶ岳ロイヤルホテルヒアリング	
11月15日	八ヶ岳観光圏シンポジウム2017	・八ヶ岳観光圏の取組と日本版 DMO の確立ほか
11月27日	(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント打合せ	・ヒアリング結果の確認と計画策定スケジュール ほか
11月28日	まきばレストランヒアリング	※1
12月7日	八ヶ岳シルクロード美術館ヒアリング	
12月8日	3市町村担当国会議	・観光圏整備計画の状況とスケジュール確認等
12月19日	富士見パノラマリゾートヒアリング	※1
12月20日	富士見町観光協会ヒアリング	
12月21日	(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメントヒアリング	・圏域の課題抽出のお願い
12月22日	富士見町商工会ヒアリング	※1
2月9日	3市町村課長会議	・観光圏整備計画及び同整備実施計画の状況確認等
2月20日	JR 東日本八王子支社説明	観光圏整備計画について等
2月21日	JR 東日本長野支社中込営業所説明	観光圏整備計画について等

2 月 28 日	JR 東日本長野支社説明	観光圏整備計画について等
3 月 23 日	八ヶ岳観光圏整備推進協議会臨時総会	観光圏整備計画(案)及び観光圏整備 実施計画(案)について等

### 3 観光圏整備事業の概要

八ヶ岳観光圏が目指すコンセプト「1000m の天空リゾート八ヶ岳 ～澄みきった自分に還る場所～」を実現するために、戦略的に推進していくための施策の主なものは下記のとおりである。

#### (1) マーケティング調査

国内外来訪者満足度調査事業

実施主体：(一社) 八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

事業概要：国内外の来訪者に対し、国の基準（7 段階評価）を採用した全国 13 観光圏共通の調査票を用いた来訪者満足度調査を、圏内の観光施設（対面聞き取り調査）及び宿泊施設（留め置き調査）で実施し、分析する。

#### (2) 宿泊サービスの改善及び向上

宿泊施設品質管理事業（サクラクオリティ）

実施主体：(一社) 八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

事業概要：全国 13 観光圏が共通事業として取り組んでいる宿泊品質管理基準（サクラクオリティ）を推進する。

#### (3) 観光資源を活用したサービスの開発及び提供

宿泊滞在プログラムの改善・滞在コンテンツの磨き上げ

実施主体：(一社) 八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

事業概要：八ヶ岳観光圏の独自の観光資源を利用した滞在プログラムのモニタリング調査を引き続き行い、国内外からの来訪者のニーズあったプログラムへの改善を積極的に行う。

#### (4) 移動の利便性の向上

2 次交通の利便性の向上事業

実施主体：(一社) 八ヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

事業概要：訪日外国人来訪者の利便性の向上を図るため、2 次交通における音声案内や車内表示、各種情報を多言語化する。また、2 次交通利用者の滞在周遊観光の促進を図るため、各種サービスの開発に取り組む。

(5) 情報提供の充実強化

戦略的情報発信機能の構築と整備

実施主体：(一社) ハヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

事業概要：ハヶ岳DMSの各種システムの充実を図る。

(6) 各事業の管理、評価及び改善

ブランド観光地域戦略会議／専門部会会議

実施主体：(一社) ハヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

事業概要：観光地域づくりの専門家を招請し、観光地域づくりマネージャーや圏域の諸団体、国、県、構成市町村で会議を開催し、事業の執行状況や圏域の課題を確認及び共有し、改善策を検討する。

2次交通とインバウンドについては、専門部会を設けて、受入環境等の対策を図る。

(7) 地域住民が一体となった観光地域づくりの推進

観光地域づくり推進事業

実施主体：(一社) ハヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

事業概要：観光地域づくりマネージャーによるワークショップ等を通じ、地域住民への意識啓発・合意形成を図る。

(8) その他

ユニバーサルフィールド推進事業

実施主体：(一社) ハヶ岳ツーリズムマネジメント

実施期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 35 年 3 月 31 日

事業概要：アウトドア用車いす、着座式スキーなどを導入し、学習旅行の支援、受入れ状況調査と集約、啓蒙イベント等を開催する。

## 4 協議会に関する資料等

### (1) 協議会名称

八ヶ岳観光圏整備推進協議会

### (2) 協議会構成員

平成 30 年 3 月 23 日現在

構成員	名称	役職名	代表者名	協議会の職名
県	山梨県	知 事	後藤 斎	顧 問
	長野県	知 事	阿部 守一	顧 問
市町村	山梨県北杜市	市 長	渡辺 英子	会 長
	長野県富士見町	町 長	名取 重治	副会長
	長野県原村	村 長	五味 武雄	副会長
観光団体	(一社)北杜市観光協会	会 長	浅川 力三	
	富士見町観光協会	会 長	窪田 福美	
	原村観光連盟	会 長	五味 武雄	
商工団体	北杜市商工会	会 長	輿水 順彦	
	富士見町商工会	会 長	名取 元秀	
	原村商工会	会 長	小平 恒夫	
農業団体	梨北農業協同組合	組合長	澤井 實	
	信州諏訪農業協同組合	組合長	小松 八郎	
交通関係	東日本旅客鉄道(株)八王子支社	支社長	坂本 浩行	
	東日本旅客鉄道(株)長野支社	支社長	伊藤 悦郎	
	山交タウンコーチ(株)	代表取締役	雨宮 正英	
	山梨峡北交通(株)	代表取締役	野口 正人	
	アルピコ交通(株)	社 長	古田 龍治	
財団	(公財)キープ協会	理事長	浅田 豊久	
社団	(一社)八ヶ岳ツーリズムマネジメント	理事長	小林 昭治	代表者
	(公社)やまなし観光推進機構	理事長	井澤 啓	
	(一社)富士見町開発公社	理事長	名取 重治	
その他	NPO 清里観光振興会	会 長	小林 勉	
	八ヶ岳南麓やとわれ支配人会	会 長	田中 大策	
	富士見高原リゾート(株)	代表取締役	福田 敏明	
	富士見高原ペンションビレッジ	自治会長	富内 眞一	

### (3) 八ヶ岳観光圏整備推進協議会規約

#### 第1章 総則

(名称)

第1条 この協議会は、八ヶ岳観光圏整備推進協議会(以下「協議会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 協議会は、事務所を山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1に置く。

(目的)

第3条 協議会は、観光地相互間の連携によって観光圏を形成し、その観光の魅力の増進により国際競争力を高め、内外からの観光客の来訪及び滞在を促進することを目的とする。

(事業)

第4条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 観光圏整備計画の策定に関する事業
- (2) 観光圏整備実施計画に関する事業
- (3) 観光圏の認知度向上及び観光客の誘致並びに満足度の向上のための事業
- (4) その他協議会が定める事業

#### 第2章 構成員等

(協議会の構成員)

第5条 協議会の委員は、次の各号に掲げるものをもって組織する。

- (1) 山梨県
  - (2) 長野県
  - (3) 北杜市
  - (4) 富士見町
  - (5) 原村
  - (6) 構成する市町村に所在する観光、交通、経済、農林水産畜産業に関する団体、事業者
  - (7) その他協議会が必要と認める者
- (届出)

第6条 構成員は、その氏名及び住所(構成員が団体の場合については、その名称、所在地及び代表者の氏名)に変更があったときは、遅滞なくその旨を届けなければならない。

#### 第3章 運営等

(協議会の運営)

第7条 協議会の議決の方法は、多数決とし、可否同数の場合は議長の決するところに

よる。

2 協議会は、原則として公開とする。

3 協議会の事務局は、北杜市役所産業観光部観光課において処理する。

(役員)

第8条 協議会に次の役員を置く。

(1) 会長 1名

(2) 副会長 2名

(3) 監事 2名

2 会長は、北杜市長を充てる。

3 副会長は、富士見町長、原村長を充てる。

4 監事は、総会において、互選によって決定する。

5 本会に顧問を置くことができる。

(1) 顧問は、会長が委嘱する。

(役員の職務)

第9条 会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

3 監事は、会計を監査する。

(ワーキング部会)

第10条 本会の円滑な運営を図るためワーキング部会を置く。

2 ワーキング部会は、山梨県、長野県、構成市町村のほか、会長が必要と認める団体、事業者等から選出し、会務執行上必要な調査、研究、企画立案を行う。

3 ワーキング部会は、会長が招集する。

4 ワーキング部会に座長を置く。

## 第4章 総会

(総会の種別)

第11条 協議会の総会は、通常総会および臨時総会とする。

2 総会は会長が招集し、議長となる。

3 通常総会は、毎年1回以上開催する。

4 臨時総会は、会長が必要と認めたときに開催する。

(協議結果の取扱い)

第12条 協議会において協議が整った事項については、協議会の構成員はその協議の結果を尊重しなければならない。

(議事録)

第13条 総会の議事については、議事録を作成しなければならない。

2 議事録は、次の各号に掲げる事項を記載する。

- (1) 日時及び場所
  - (2) 委員の現在数、当該総会に出席した委員数、当該総会に出席したと見なされる者の数及び当該総会に出席した委員の氏名
  - (3) 議案
  - (4) 議事の経過の概要及びその結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 3 議事録は、第2条の事務所に備え付けておかなければならない。

## 第5章 業務計画

### (業務計画)

- 第14条 協議会の業務計画は、会長が作成し、業務開始前に総会の議決を得なければならない。
- 2 前項の業務計画を変更しようとする場合についても、同様とする。

## 第6章 会計

### (事業年度)

- 第15条 協議会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

### (資金)

- 第16条 協議会の資金は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 国土交通省の補助金
- (2) 構成市町村からの負担金
- (3) その他の収入

### (資金の取り扱い)

- 第17条 協議会の資金の取扱方法は、別途会計処理規程で定める。

### (事務経費支弁の方法等)

- 第18条 協議会の事務に要する経費は、第16条の資金をもって充てる。

### (収支予算)

- 第19条 協議会の収支予算は、事務局が作成し、事業開始前に総会の議決を得なければならない。

## 第7章 代表者

### (代表者)

- 第20条 総会の決定に基づき業務を執行するために代表者を置く。

- 2 協議会の代表者は、次に掲げるものとする。

一般社団法人 八ヶ岳ツーリズムマネジメント 理事長



## 第8章 雑則

### (細則)

第21条 この規約に定めるものの他、協議会の事務の運営上必要な細則は、会長が別に定める。

### 附則

- 1 この規約は、平成21年8月21日から施行する。
- 2 設立当初の事業年度は、第15条の規定にかかわらず、設立の日から平成22年3月31日までとする。
- 3 平成22年5月7日一部改正
- 4 平成23年6月3日一部改正
- 5 平成25年6月3日一部改正
- 6 平成29年7月1日一部改正
- 7 平成30年3月23日一部改正

## 5 その他市町村又は都道府県が必要と認める事項

### (1) 社会資本整備等との連携

本計画の前提となる社会資本整備等について以下に示す。

#### (社会資本整備総合交付金)

- 「活気あふれる地域社会の実現を目指した交通ネットワークの構築」
  - ・ 交通ネットワークの充実による地域の産業競争力の強化や地域内外の交流・連携による地域の自立・活性化、地域の魅力・交通快適性を向上させる道路整備と併せて、地域の魅力を向上させる環境整備を行い、活力ある自立した地域経済社会を形成する。
  - ・ 計画期間：平成 26～30 年度
- 「地域の特色を活かした観光・物流・交流の活発化に資する道づくり（2 期）」
  - ・ 地域間を結ぶ道路の連絡強化を図り、利便性の高い居住空間の整備による人口流出の抑制を促進し、活力のあるまちづくりを進める。
  - ・ 計画期間：平成 30～34 年度
- 「甲信地域広域的観光活性化計画」
  - ・ 本地域は、自然、歴史、文化や食を始めとした多様な地域資源を有するエリアであり、八ヶ岳観光圏の形成、南アルプスユネスコエコパークの正式登録などを通じて観光誘致活動や高原地域を活かしたゴルフ、トレイルラン、ウインタースポーツ、乗馬などのアクティビティや農業などの体験機会の提供等が緊密に行われている。さらに、山の日制定による山岳観光の注目も加わり、甲信地域の観光ポテンシャルが高まっている。リニア中央新幹線が整備される山梨県峡南地域及び長野県下伊那地域や国際化を目指す松本空港を有する長野県中信地域を中心に、東京圏・名古屋圏と中央自動車道等の高速交通ネットワークで結ばれている。  
このポテンシャルを活かし、国際観光地の形成、地域資源を活かした広域周遊観光の推進や都市と農山村との対流形成を支援する社会資本整備を進め、本地域における拠点施設の魅力を高め、さらなる観光活性化を図る。
  - ・ 計画期間：平成 29～33 年度
- 「災害に強い「道の駅」の安全・安心な防災拠点づくり」
  - ・ 道の駅の機能強化を行うことで、道路利用者への安全で快適な道路交通環境を提供し、併せて地方創生拠点化を図る。緊急輸送道路における防災拠点化としての道の駅の防災機能強化を図る。
  - ・ 計画期間：平成 29～33 年度

## (防災・安全交付金)

- 「山梨県における総合的な土砂災害対策の推進（防災・安全）」
  - ・ 近年の集中豪雨の増加等による土砂災害リスクの増大に対し、保全対象の特性に応じた優先順位を付ける中で効果的・効率的な整備を進めるとともに、防災に関する広報など総合的な対策を実施することにより、県民の安心安全の確保を図る。
  - ・ 計画期間：平成 27～31 年度
- 「山梨県における総合的な土砂災害対策の推進（防災・安全）（重点）」
  - ・ 近年の集中豪雨の増加等による土砂災害リスクの増大に対し、保全対象の特性に応じた優先順位を付ける中で効果的・効率的な整備を進めるとともに、防災に関する広報など総合的な対策を実施することにより、県民の安心安全の確保を図る。
  - ・ 計画期間：平成 28～31 年度
- 「山梨県全域における流域一体となった総合的な浸水対策の推進(防災・安全)」
  - ・ 流域が一体となって総合的な浸水災害対策を実施することにより、県民の安心安全の確保を図る。老朽化したダムの施設更新を実施することにより、各設備で発生している機器異常や故障を解消し適正な洪水調節や水の安定供給を図る。
  - ・ 計画期間：平成 27～31 年度
- 「計画的な維持管理と震災対策による安全・安心な道路環境の確保（防災・安全）」
  - ・ 基幹ネットワークを形成している国道や生活幹線道路となる県道の既存橋梁や既存トンネル等について、計画的な維持管理と震災対策により、平常時や災害時などにおける、安全・安心な道路環境の確保を図る。
  - ・ 計画期間：平成 29～33 年度
- 「通学路等の生活空間における安全・安心な道路環境の確保（防災・安全）」
  - ・ 通学路等の生活空間において、安全・安心な歩行空間を確保し、道路利用者にとって安全・安心な道路環境を創造する。
  - ・ 計画期間：平成 29～33 年度
- 「道路利用者の誰もが快適で安全・安心な道路環境の確保（Ⅱ期）（防災・安全）」
  - ・ 誰もが安全・安心に利用できる道路空間の確保や緊急輸送道路等の斜面法面防災対策を計画的に実施し、道路利用者にとって安全・安心な道路環境を創造する。
  - ・ 計画期間：平成 30～34 年度
- 「インフラ老朽化に対応する戦略的な道づくり（防災・安全）」
  - ・ 今後老朽化が予想される道路ストック（橋梁・舗装等）を計画的に修繕し、信頼性の高い道路ネットワークを確保する。また、従来の対処療法的な管理から予防保全的な管理を行うことで将来の維持管理コストの削減を図り、次世代へ道路ネットワークを引き継ぐ。
  - ・ 計画期間：平成 29～33 年度

- 「道路施設の適確な老朽化対策による道づくり（防災・安全）」
  - ・ 市町村道において法定点検を計画的に行い、個別施設計画に基づき、老朽化の対策が必要な施設（橋梁、トンネル、大型カルバート、横断歩道橋等）に対し、対策を実施した割合を向上させることを目標とする。
  - ・ 計画期間：平成 30～34 年度
- 「通学路等の交通安全対策による道づくり（防災・安全）」
  - ・ 通学路合同点検を受け、危険と位置づけられた箇所を中心に、歩道並びに交通安全施設を整備するとともに交通安全啓発活動などのソフト事業を行ない、児童が安心して通学できる環境づくりを目標とする。
  - ・ 計画期間：平成 29～33 年度
- 「安全・安心・快適な交通を確保する道路整備等の推進計画（防災・安全）」
  - ・ 災害に強い交通ネットワークの確保と適切な道路管理を複合的にを行い、安全で快適な道路環境整備等を推進する。
  - ・ 計画期間：平成 30～34 年度
- 「老朽化道路インフラの適切な維持管理を行うための点検および修繕・更新計画（防災・安全）」
  - ・ 維持管理に関する省令及び告示の規定に基づいた定期点検の確実な履行と長寿命化修繕計画および点検結果に基づき判断された道路インフラの修繕、更新等を推進する。
  - ・ 計画期間：平成 28～30 年度

## （２）既存事業との効果的な連携

観光圏整備事業の実施に際しては、観光まちづくり関連の既存の主要な国庫補助事業等との効率的・効果的な連携を図るものとする。

